

# 平成15年度 共通教育履修案内 〔1年次の学生用〕

この履修案内は、共通教育授業時間割及び1年次の学生の履修手続等についてお知らせするものです。学生のみなさんは、各学部の履修の手引等により、共通教育の履修要件等を確認し、この履修案内と共通教育シラバスを参照して、履修計画をたててください。

なお、学生のみなさんは、この履修案内を紛失等しないように、留意してください。

山口大学大学教育センター

## 平成15年度 共通教育関係学事日程表

学期	日	時	摘 要
前 平 成 期 15 年	4月 1日(火) ~ 4月 7日(月)		春季休業
	4月 3日(木)		入学式
	4月 4日(金) ~ 4月 10日(木)		フレッシュマンセミナー(注1), オリエンテーション
	4月 7日(月) ~ 4月 8日(火)		自然科学分野プレースメント・テスト
	4月 11日(金)		授業開始
	4月 18日(金) ~ 4月 24日(木)		履修届提出期間
	4月 25日(金) ~ 4月 28日(月)		履修届変更受付期間
	5月 6日(火) ~ 5月 7日(水)		履修届確認期間(注2)
	6月 1日(日)		山口大学創立記念日
	6月 7日(土) ~ 6月 8日(日)		第1回TOEICテスト
	7月 16日(水)		月曜日授業振替日(注3)
	7月 17日(木)		補講期間(注4)
	7月 18日(金) ~ 7月 31日(木)		前期末定期試験期間
	8月 1日(金) ~ 9月 30日(火)		夏季休業
	8月 4日(月)		第2回TOEICテスト
	後 平 成 期 16 年	9月 29日(月)	
10月 6日(月) ~ 10月 10日(金)			履修届提出期間
10月 14日(火) ~ 10月 15日(水)			履修届変更受付期間
10月 21日(火) ~ 10月 22日(水)			履修届確認期間(注2)
12月 25日(木) ~ 1月 7日(水)			冬季休業
1月 16日(金)			午後臨時休業
1月 21日(水)			月曜日授業振替日(注3)
1月 22日(木) ~ 1月 23日(金)			補講期間(注4)
1月 27日(火) ~ 2月 9日(月)			後期末定期試験期間
2月 10日(火) ~ 3月 31日(水)			学年末休業
3月 23日(火)		卒業式	

▶ この学事日程については、共通教育に関するもので、所属する学部固有の行事等については、所属する学部の教務担当係の指示に従ってください。

(注1) フレッシュマンセミナーの日程等については、所属する学部により異なりますので、所属する学部の教務担当係の指示に従って、必ず参加してください。

(注2) 履修届確認期間については、変更する場合がありますので、掲示に留意しておいてください。

(注3) 月曜日授業振替日とは、祝祭日等により休日となる月曜日の授業を振り替えて、当該の日にも曜日の授業を行う日です。従って、振り替えられた曜日の授業については、開講されません。

(注4) 補講期間とは、不足分の授業内容を補うための講義(補講)について、担当教官の判断により実施する期間です。従って、当該の曜日の授業については、開講されません。

# ◆ ◆ 目 次 ◆ ◆

I. 共通教育とは	
1. 共通教育とは	1
2. 共通教育の理念	1
3. 共通教育の内容	1
II. 共通教育の仕組み	
1. 学期と授業時間	3
2. 月曜日授業振替日と補講	3
3. 単位の基準	4
4. 共通教育の授業計画	5
III. コースカリキュラムの仕組み	
1. コースカリキュラムとは	6
2. 科目編成表の見方について	6
3. コースマトリックス表の見方について	8
4. 学生別履修要件表の見方について	9
5. コースカリキュラムを修了するためには	10
IV. 共通教育科目の履修上の注意	
1. 履修科目の登録の上限について	12
2. 英語の履修について	12
3. 初習外国語の履修について	20
4. 自然科学入門分野の履修について	22
5. 自然科学実験分野の履修について	23
6. 運動健康科学及びスポーツ運動実習の履修について	24
7. フレッシュマン・セミナー(新入生合宿)について	25
8. 日本語・日本事情の履修について	25
V. 履修手続について	
1. 履修手続について	26
2. 履修手続に関する注意事項	28
3. 履修及び授業に関する問い合わせ	28
4. 掲示について	29
IV. 共通教育の定期試験について	
1. 定期試験等について	30
2. 定期試験の受験上の注意	30
3. 追試験について	30
4. 再試験について	31
5. 成績について	31
VII. その他	
1. 既修得単位の認定	33
2. 放送大学の授業科目の履修について	33
3. 山口県立大学の授業科目の履修について	33
4. 教育職員免許状について	34
5. 共通教育本館コインロッカーの使用について	34
VIII. 山口大学共通教育履修規則	35
IX. 平成15年度 共通教育授業時間割	41
○ 附 表	63

# I. 共通教育とは

## 1. 共通教育とは

### (1) 共通教育とは

共通教育は、幅広く深い教養及び総合的な判断力をともなった豊かな人間性を涵養することを目的とし、さらに専門的な学問研究等に取り組むための基礎的な教育を提供する場として、開設されています。

### (2) 共通教育の特色

本学の共通教育は、コースカリキュラムに基づいた、次のようなキーワードを反映した教育システムです。

- ① 大学4年間(あるいは、6年間)一貫教育によるゆとりのある教育システム
- ② セメスター制(一部、クォーター制)による授業科目の提供
- ③ TOEIC等を導入した外国語教育の実施
- ④ 情報リテラシー教育の充実
- ⑤ IT機器を利用した授業科目の積極的な導入
- ⑥ 少人数による学生と向き合った対面教育の実施

## 2. 共通教育の理念

### (1) 共通教育の理念・目標

『発見し、はぐくみ、形にする<知の広場>』というユニークな山口大学の理念に基づき、共通教育においては、『自分自身が“発見し、はぐくみ、かたちにする”ことを通して、人間的な平和や幸福、豊かさを探求し、実現していくための礎(いしずえ)をつくること』を理念としています。

### (2) 共通教育の目的

科学技術の発展及び高度化が著しく、現代の社会や世界の急速に変化しています。そのために、最新の知識や技術であっても、すぐに古びてしまうのが現実です。このような時代において、最も重要なことと言えば、学生のみなさんが社会に出帆してからも、生涯を通して知的能力や知識を学び直して行くこと、自分から学び直そうとする態度なのです。その第一歩としての礎(いしずえ)をつくり、豊かな人間性をはぐくむことを目的としています。

## 3. 共通教育の内容

### (1) 共通教育科目の区分

共通教育科目については、学問としての幅広く深い教養及び総合的判断力を培う**教養科目**及び大学生としての最低限身に付けるべき学問の基礎的技能教育を行う**基礎科目**の2つに大別されます。

### (2) 教養科目

教養科目については、以下のように分類され、幅広い分野の教養を学習することにより、物事を捉える総合的な判断力と多角的な視野を養成していきます。

#### ① 主題系列

1年次の学生(工学部を除く。)を対象とした転換期教養科目であり、知的興味を喚起し、将来にも及ぶ豊かな知識を育成することを目指した授業科目群です。授業科目としては、以下の6つの主題から構成され、それぞれの主題の中には、いくつもの副題(テーマ)により構成されています。例えば、前期月曜日5・6時限の『加齢と健康』については、健康とスポーツの副題となります。

《思想と文化》      《芸術と表現》      《社会と組織》  
《環境と人間》      《自然と科学》      《健康とスポーツ》

② 人文科学系列, 社会科学系列, 自然科学系列(文科教養系)及び応用科学系列(応用科学系)  
様々な学問の分野において, それぞれのオリジナルな考え方や概念を理解し, 柔軟な思考力を養成することを旨とした授業科目群です。

③ 外国語教育系列(初習外国語系)

初習外国語の運用能力を身に付けるとともに, その外国語の背景にある異言語文化との接触により国際的視野を広げ, 異文化理解を深めていき, 国際化社会にふさわしい教養と柔軟な適応力を養成することを旨とした授業科目群です。

④ 一般系列(総合科目)

現代的なテーマについて, 学問の高度な進歩による過度に専門化した授業を避けて, 分野の境界を越えた多角的な視野から問題を捉えられる視点を養成することを旨とした授業科目群です。この授業科目群については, マネージャー役の担当教官を中心として, 複数の学問領域の担当教官が, オムニバス形式により講義を行います。

原則として, **2年次以降の高年次生用の授業科目**として, 開設されています。

(3) 基礎科目

基礎科目については, 以下のように分類され, それぞれの分野における大学生としての基礎的な知識や学力を養成していきます。

① 自然科学系列(理科基礎系), 応用科学系列(医療福祉系)

理学部, 医学部等の理系学部における共通的な基盤としての基礎的知識の修得と, 理系学部に在籍する学生の基礎学力の養成を旨とした授業科目群です。

② 初期教育系列

大学における学習のために絶対不可欠な基礎的な学習能力及び基礎知識としての情報処理技術の養成を旨とする授業科目群です。

③ 外国語教育系列(英語系)

TOEICに準拠したカリキュラムに基づいて, 国際的なコミュニケーション能力を有する英語能力の習得に重点を置きながら, 一般的な意味における英語能力(読む・書く・聞く・話す)の総合力の養成と専門教育における必要不可欠な英語能力の育成を旨とする授業科目群です。

Q: 大学の授業ですが, 難しくありませんか?

A: 大学の授業, 特に講義形式の授業を受講すると, 始めのうちは難しく感じることでしょ  
う。それは, 高等学校までの授業とは, かなり違った方法により授業を進められていく  
からなのです。大多数の大学の授業においては, ノートにまとめて, その内容を覚える  
だけでは, 本当に学んだことにはなりません。自分自身で考えるというプロセスを踏ま  
ないと, 本当に学んだことにはならないのです。

大学の授業を難しい感じる理由の1つは, ある授業において, 学生のみなさんにある決  
まった知識を与えているのではなく, 自分自身が考えるための材料を与えているからな  
のです。『大学で学ぶ』ということは, 授業を単に聞くことではなく, 自分自身で考え  
ることから始まるのです。

そのために必要なことは, 疑問点等を担当教官に質問することは, 自分自身で考えるた  
めの良いきっかけになります。質問については, 授業中だけではなくても, オフィス・  
アワーを利用したり, e-mailにより可能です。また, 関連した書籍や資料を読んでみる  
ことも良いでしょう。

## Ⅱ. 共通教育の仕組み

### 1. 学期と授業時間

#### (1) 学期について

共通教育においては、1年間を前期と後期とに2つの学期に分けるセメスター制により、各授業科目を提供しています。学期の期間については、以下のとおりです。

《前期》 4月1日～9月30日

《後期》 10月1日～3月31日

(ただし、平成15年度の後期の授業については、9月29日から始まります。)

#### (2) クォーター授業について

クォーター授業とは、一部の授業科目において、各セメスターの半分の期間により完結する授業です。

詳細については、41ページの《授業時間割の表記の例》を参照ください。

《例1》 [クォーター1] 物理学入門1 → [クォーター2] 物理学入門2

《例2》 [クォーター1] TOEIC準備 → [クォーター2] TOEIC指導

《例3》 [クォーター1] 生物学の考え方 → [クォーター2] 地球科学の考え方

#### (3) 授業時間について

授業時間については、1日を1時限から10時限までに分け、以下のとおりとなっています。

《1・2時限》 8時40分～10時10分

《3・4時限》 10時20分～11時50分

《5・6時限》 12時50分～14時20分

《7・8時限》 14時30分～16時00分

《9・10時限》 16時10分～17時40分

《5・6・7・8時限》 12時50分～15時50分(実験)

Q: 先輩から「コマ」という言い方を聞いたのですが?

A: 各授業については、90分の授業を基本としていますから、それを通称「1コマ」という言い方をします。「今日は、2コマ目(3・4時限)が休講だ!」とか「明日は、5コマも授業がある!」という使い方をします。

### 2. 月曜日授業振替日と補講

#### (1) 月曜日授業振替日とは

月曜日授業振替日とは、祝祭日等により休日となる月曜日の授業を振り替えて、当該の日に月曜日の授業を行う日で、従って、振り替えられた曜日の授業については、開講されません。

なお、月曜日振替授業日であっても、すべての月曜日の授業を開講するとは限りませんので、掲示に留意しておいてください。

#### (2) 補講の実施について

共通教育科目については、定期試験開始前の所定の期間(補講期間)において、担当教官の判断により、不足分の授業内容を補うための講義(補講)を実施することがあります。補講の実施曜日及び時限等については、掲示を確認してください。

なお、補講期間における補講の実施については、各授業科目の開講曜日及び時限を問わず開講されますので、同一の曜日及び時限において、補講の重複が起きることがあります。その際には、担当教官に連絡をとり、その出欠等について、事前に確認しておいてください。

### 3. 単位の基準

#### (1) 単位の基準等

各授業科目の単位については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により単位数を計算しています。

講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とし、実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とします。各授業科目の授業時間と単位数の関係については、以下のとおりです。

区 分	週授業時間数	学期当りの単位数 (1学期：15週) 《前期または後期》	備 考
講義・演習	2時間	2単位	
実 験	4時間	1/2学期 1単位	医学部及び工学部の学生
	4時間	2単位	理学部及び農学部の学生
実 習	2時間	1単位	
外 国 語	2時間	2単位	
	4時間	※ 4単位	
日 本 語	2時間	1単位	外国人留学生

※ 一部の授業科目(ドイツ語初級1等)については、1学期30週の授業となります。

#### (2) 成績と単位の修得

成績については、共通教育シラバスに掲載されている各授業科目における担当教官の成績評価方法(定期試験(中間試験及び期末試験)の成績、小テスト・レポート、課題、授業態度、出席状況等)によって、100点法により算出されます。60点以上を合格とし、59点以下を不合格と判定します。ここで、合格となった授業科目については、その単位を修得したことになります。

なお、成績の評語については、以下のとおりです。

評 語	評 点	合 否 種 別
優	100点 ~ 80点	合 格
良	79点 ~ 70点	
可	69点 ~ 60点	
不可	59点 ~ 0点	不 合 格

Q: 『単位』って何なの? ~~~~~

A: 学生のみなさんが、所属する学部の中において、進級や大学を卒業したという資格を得る際には、この『単位』というものを基準にして、判定されることになります。ここで大切なことは、履修した授業科目の成績については、定期試験やレポート等により、それぞれ優、良、可、不可というように評価されますが、『単位』という基準から考えると、優~可までを一律に合格として判定され、単位を修得したことになるわけです。確かに、成績が良いことにこしたことはありませんが、『単位』を修得できたかということは、その以上に重要なことですので、留意してください。

それから、この『共通教育履修案内』を見て感じると思いますが、大学においては、講義、実験、実習等いろいろな形態の授業があり、学生のみなさんが修得できる『単位』については、それぞれに違いがあります。従って、どの授業の『単位』を修得して、合計どれだけの『単位』を修得しているかということは、自分自身がしっかり把握しておかないといけません。『単位』については、自分自身の責任において、管理しないといけないということを忘れないでください。

## 4. 共通教育の授業計画

### (1) 平成15年度における授業計画

平成15年度における共通教育の授業計画については、41ページ～62ページに記載されています『Ⅸ. 平成15年度 共通教育授業時間割』のとおり実施します。

開講されるそれぞれの授業科目については、所属する学部及び学科等において、必修または選択必修、単位数の制限等がありますので、詳細については、『Ⅳ. 共通教育科目の履修上の注意』及び各学部の履修の手引きを確認してください。

なお、授業科目によっては、学部や学科等ごとに対象学生を指定していたり、出席番号によりクラス指定されているものもありますので、特に留意してください。

### (2) 共通教育履修案内

共通教育履修案内においては、当該年度の共通教育時間割及び共通教育科目の履修手続に関する情報を記載しています。

なお、共通教育履修案内については、学生のみなさんが卒業するまで使用するものです。紛失等しないように、大切に取扱ってください。

### (3) 共通教育シラバス

共通教育シラバスには、当該年度の各共通教育科目の授業の概要や授業計画、成績判定方法、テキスト等に関する情報を記載しています。

Q：シラバスって何なの？

A：シラバスとは、学生のみなさんが、たくさん開講されている授業科目の中から、履修する授業を選択する道しるべとなる有益な情報をたくさん盛り込んでいます。それぞれの授業の詳しい内容や目標、成績判定方法、テキストや参考書、担当教官からのメッセージ等、学生のみなさんに役立つ情報が満載です。履修する授業を選択するときだけではなく、授業の進行してる間にあっても、シラバスの内容をチェックすることをおすすめします。

共通教育については、分厚い冊子の『共通教育シラバス』と山口大学ホームページ上の『電子シラバス CABOS』とが、作成されています。また、所属する学部によっては、CD-ROMを配付している学部もあります。これらのシラバスを参照しながら、学生のみなさんが履修した授業の学習に役立ててください。

### (4) 受講制限について

共通教育については、適正な授業運営のために、受講制限を実施することがあります。

第1回目の授業において、適正な受講者数を超過した場合には、当該授業の担当教官の判断により、受講制限を実施し、第2回目の授業から受講する学生の人数を調整します。抽選等により受講制限を実施した授業科目については、第2回目から受講が可能となった学生の名簿を掲示しますので、第2回目の授業日までに掲示を確認して、受講してください。

なお、受講制限を実施した授業科目においては、第2回目以降の授業から、新たに当該授業を受講することはできません。受講制限を実施した授業科目の一覧表を掲示しますので、留意してください。



### Ⅲ. コースカリキュラムの仕組み

#### 1. コースカリキュラムとは

##### (1) コースカリキュラムとは

コースカリキュラムとは、あらかじめ設置された『コース』に定められた授業科目を履修して、1つ以上の決められた数のコースを修了し、卒業に必要な単位数をクリアしていく教育カリキュラムです。

コースカリキュラムの特徴とは、学生のみなさんの多様な希望や状況に応じた『自由選択度』の高いカリキュラムであることが挙げられ、学生のみなさん個人個人の能力に適った授業科目を選択すること、設定された『コース』により体系的に授業科目を履修することが可能となり、学生のみなさんの学修効果を向上させることができるカリキュラムとなっています。

##### (2) コースカリキュラム・マトリックス表

学生のみなさんは、各学部の履修の手引に掲載されているコースカリキュラム・マトリックス表に基づき、単位を修得していくこととなります。このコースカリキュラム・マトリックス表については、科目編成表、コースマトリックス表及び学生別履修要件表からなり、この3つの表の仕組みについて、次に説明していきます。

Q：コースカリキュラム、どのように履修していくの？

A：コースカリキュラム・マトリックス表を見て、“いきなり自分の履修の計画を設計してください”って、言われても、どうすればいいのでしょうか？ まず最初に、学生のみなさんは、学生別履修要件表の学生区分に示されたあなたの学科等を探してください。あなたの学生区分においては、どんなコースを選択することができますか？ 選択できるコースの中には、どんな授業科目に◎や○が付いていますか？ そして、その授業科目とは、どのように履修して、いつ開講されていますか？ いろんな『？』を挙げてみましたが、こうした『？』を解決していくのは、学生のみなさん自身なのです。コースカリキュラムとは、コースカリキュラム・マトリックス表という海の上に、学生のみなさん一人一人が、それぞれの航海をしていくようなものです。コースカリキュラムの詳細については、これから説明していきますが、分からないことに直面したときには、先輩や友達の曖昧な情報を頼りにしないで、担当の先生や教務担当係に相談してください。

#### 2. 科目編成表の見方について

##### (1) 科目編成表について

コースカリキュラム・マトリックス表の左上部に記載している科目編成表には、共通教育に開設されている授業科目が記載されており、体系化する系列、分野、授業科目の設置、科目類型、単位数等が表記してあります。

##### (2) 系列と分野

系列と分野とは、科目編成表を体系化するグループであり、それぞれの授業科目を分野により学際的にグループ化させ、各分野を系列により体系化しています。

##### (3) 設置

設置には、共通、開放及び認定の3つの形態があります。

**共通**とは、共通教育設置の授業科目を意味しており、**開放**とは、各学部の専門科目のうち、共通教育として学生を受け入れることができる授業科目を意味しています。

**認定**とは、他の教育機関等における修得単位を認定する際に、コースカリキュラムに特例的に設置する授業科目を意味しています。

#### (4) 科目類型

科目類型とは、1つの分野に属する授業科目群の中において、授業科目群の中での段階的な履修を可能とする分類のことであり、基礎、総説、展開及び包括の4つの類型に分かれています。

**基礎**とは、当該の分野において、大学以前の教育課程に修得しておくべき程度の内容を学修し、大学教育に適応する能力を養成する授業科目であることを意味しています。この授業科目については、基礎の学力を有すると認められた学生に対しては、履修を免除されます。

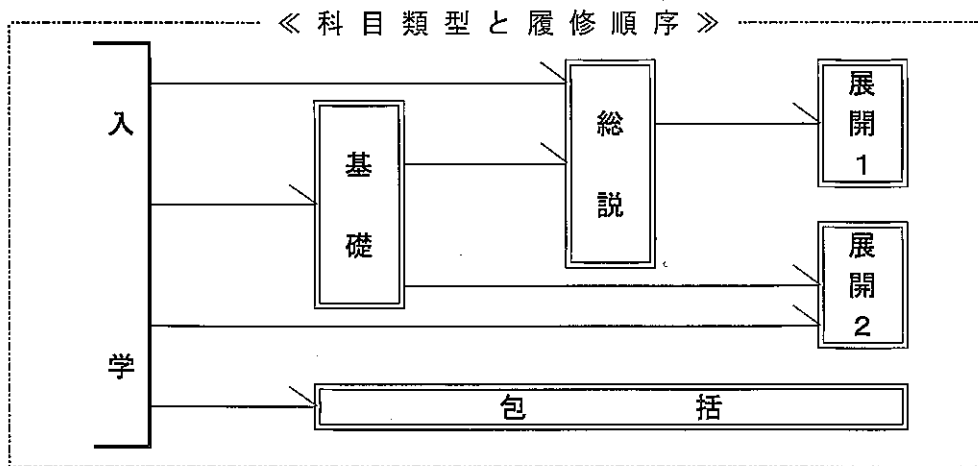
**総説**とは、当該の分野の基礎を学んでいることを前提として、広い教養を身につけていく授業科目であることを意味しています。この授業科目については、同一の分野のすべての基礎の授業科目の単位を修得した学生または基礎の学力を有すると認められた学生のみが、履修することができます。ただし、同一の分野に基礎の授業科目が存在しない場合には、その分野の総説の授業科目を履修することができます。

**展開**とは、当該の分野の総説の授業科目から、より発展した内容を学修し、深い知識と教養を育成する授業科目であることを意味しています。展開については、**展開1**と**展開2**の2つの科目類型を設定しています。展開1の授業科目については、同一の分野のすべての総説の授業科目の単位を修得した学生のみ、履修することができます。また、展開2の授業科目については、同一の分野のすべての基礎の授業科目の単位を修得した学生のみが、履修することができます。ただし、同一の分野に基礎の授業科目が存在しない場合には、その分野の展開2の授業科目を履修することができます。

**包括**とは、1つの授業科目において、その授業の進行に応じて、基礎から展開にと内容を段階的に深めていく授業科目です。

Q：科目類型による履修順序を教えてください？

A：ある1つの分野の中の履修順序として、以下の図のように示すことができます。当該の分野の中に、基礎の授業科目が存在しない場合には、入学当初から総説及び展開2の授業科目を履修することができます。



Q：英語分野の『実践総合英語』を履修するためには？

A：実践総合英語の科目類型については、展開2となっています。展開2の授業科目を履修するためには、同一の分野のすべての基礎の授業科目の単位を修得していないといけません。つまり、TOEIC指導、英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕の単位を修得していないと、履修することができないわけです。

Q：応用科学分野の『環境学』を履修するためには？

A：環境学の科目類型については、展開2となっています。しかし、上記の実践総合英語と違うところは、同一の分野に基礎の授業科目がありませんので、入学当初から総説と同じように履修することができます。

Q：中国語分野の『中国語中級1』を履修するためには？

A：中国語中級1の科目類型については、展開1となっています。展開1の授業科目を履修するためには、同一の分野のすべての総説の授業科目の単位を修得していないといけません。つまり、中国語初級1及び中国語初級2の単位を修得していないと、履修することができないわけです。

#### (5) 積み上げ履修について

積み上げ履修とは、既に単位を修得した授業科目を繰り返し履修することをいいます。

科目編成表の積み上げ履修の項目において、『可』と表示されている授業科目については、同じ授業科目を繰り返し履修し、単位を修得した際には、当該の単位数を既に修得した単位数に累積して、卒業に必要な単位として算入できます。

また、『4』等の数字が表示されている授業科目にあつては、その数値については、卒業に必要な単位として算入できる上限の単位数を示しています。したがって、上限単位数を超えた単位数については、卒業に必要な単位に算入されませんので、留意してください。

ただし、農学部<sup>1</sup>の学生については、積み上げ履修を認められていません。

Q：既に『思想と文化』の単位を修得していますが、履修することができますか？

A：積み上げ履修可能な授業科目ですので、履修することができます。そして、単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定することができます。つまり、既に2単位を修得している際に、再び2単位を修得したとすると、累積した4単位を卒業に必要な単位にできるわけです。主題系列や一般系列の授業科目については、同じ授業科目であっても、いろんなテーマの内容の授業を開設しています。関心のあるテーマの授業科目については、積み上げ履修を行い、教養を深めていくのも良いでしょう。

### 3. コースマトリックス表の見方について

#### (1) コースマトリックス表について

コースカリキュラム・マトリックス表の右上部に記載しているコースマトリックス表には、あらかじめ設置された『コース』を列に表記し、行に示された授業科目に対応させて、それぞれのコースを構成する授業科目について、◎、○、①または②により表記してあります。

#### (2) 丸印の種類と意味について

コースマトリックス表に表記されている◎の授業科目については、当該のコースを修了するための必修科目です。

また、○、①、②の授業科目については、当該のコースを修了するための選択科目であり、それぞれの丸印によりグループ化された選択科目であることを意味しています。

Q：英語標準コースの授業科目構成は？

A：英語標準コースについては、◎の授業科目4科目及び○の授業科目9科目により構成されています。英語標準コースを修了するためには、◎の授業科目については、必修科目となっていますので、学生のみなさんは、必ずそれらの単位を修得しなくてはなりません。それに加えて、○の授業科目の中からいくつかの授業科目を履修して、次に説明する学生別履修要件表に定められた単位数を修得することが必要となります。

Q：○の付いていない授業科目を履修することができますか？

A：履修することができます。ただし、当該の授業科目の単位を修得したとしても、卒業に必要な単位に算入できませんので、留意してください。

## 4. 学生別履修要件表の見方について

### (1) 学生別履修要件表とは

コースカリキュラム・マトリックス表の下部に記載している学生別履修要件表には、あらかじめ設置された『コース』を列に表記し、行に示された学生区分に対応させて、それぞれのコースを修了するための要件等について、単位数により表記してあります。

### (2) 学生区分とは

学生区分とは、学生別履修要件表に適用される学生の履修パターンのグループを示し、学部や学科名等により表記されています。

### (3) コース行及びブロック行について

学生別履修要件表においては、あらかじめ設定された『コース』に対応する学生区分について、4段以上の行が表記されています。この下から2段目の行を**コース行**と呼び、最下段の行を**ブロック行**と呼びます。

**コース行**については、当該の単一のコースを修了するために必要な単位数を表記し、**ブロック行**については、ブロック指定された複数のコースにまたがって修了するために必要な単位数等を表記しています。学生のみなさんは、この2つの行に設定された単位数等に基づき、履修していくコースを選択していきます。

なお、それぞれの行について、網掛けを付しているコースまたはブロックについては、必修であることを意味しています。

Q：単位数の設定されていないコースを選択することができますか？

A：コース行において、単位数を設定していないコースについては、選択することはできません。もちろん、単位数の設定されていないコースの◎や○の付いている授業科目の単位を修得したとしても、卒業に必要な単位数に算入されませんので、留意してください。

### (4) ゾーンについて

コースマトリックス表においては、あらかじめ設定された『コース』に対応する授業科目について、丸印(◎、○、①または②等)が表記されています。ある1つのコースにおいて、これらの異なる丸印によりグループ化された授業科目グループを**ゾーン**と呼び、学生別履修要件表におけるコース行及びブロック行を除く行において、各ゾーンの単位数等を設定しています。

なお、コースを修了するためには、各ゾーンに設定された単位数をクリアしないとけません。

### (5) 卒業要件総単位数について

卒業要件総単位数については、学生区分に指定された学生が、卒業に必要な総単位数を表示しています。コースカリキュラムにおける卒業要件総単位数とは、卒業に必要な単位として認められる授業科目の中から、単位を修得した授業科目の単位数の合計により算出されます。

Q：卒業要件総単位数とは、単純に修得した授業科目の単位数の合計でいいの？

A：単位を修得した授業科目であっても、卒業要件に必要な単位として認められる授業科目でなくてはなりません。つまり、◎や○の付いていない授業科目及び選択することができない履修コースの◎や○の授業科目の単位数については、それに含めることはできないわけです。また、ある1つの授業科目について、複数のコースに○付けされている場合には、どのように単位数を数えるのでしょうか？例えば、コースA及びコースBで構成されている授業科目の哲学の2単位を修得しました。このような場合には、哲学の単位については、コースA及びコースBどちらのコースにも、2単位ずつコースを修了するために必要な単位数に数えることができますが、卒業要件総単位数においては、1つの授業科目分の2単位にしか数えることはできません。

## 5. コースカリキュラムを修了するためには

### (1) ゾーン修了要件

ゾーン修了要件とは、学生区分に指定された学生が、各ゾーンを修了するために必要な要件のことをいいます。ゾーンを修了するためには、学生別履修要件表の各ゾーンに設定されている単位数をクリアすることを必要としています。特に、必修科目を表記している◎のゾーンについては、計画的に履修してください。

なお、ゾーン修了要件については、次に説明するコースの修了の判定においてのみ、ゾーン修了要件の単位数が要求されます。つまり、コースの修了を必要としないコースにおけるゾーン修了要件あつては、必ずしも各ゾーン(◎のゾーンを含む。)に設定された単位数をクリアする必要はありません。

### (2) コース修了要件

コース修了要件とは、学生区分に指定された学生が、単一のコースを修了するために必要な要件のことをいいます。コースを修了するためには、ゾーン修了要件をクリアした上、学生別履修要件表のコース行に設定されている単位数をクリアすることが必要です。

なお、単位数に網掛けを付したコースについては、コースカリキュラムを修了するために必修となるコースです。

Q：コース修了要件の単位数ですが？

A：コース行においては、2つのパターンにより単位数を定めています。例えば、英語標準コースのコース行に『6-』と記述されていたら、英語標準コースを修了するためには、◎の授業科目の4単位を含めて、最低6単位以上の単位を修得しないとけません。また、『6-8』と記述されていたら、◎の授業科目の4単位を含めて、最低6単位以上の単位を修得することは同じですが、8単位を超えた単位については、卒業に必要な単位に算入されませんので、留意してください。

### (3) ブロック修了要件

ブロック修了要件とは、学生区分に指定された学生が、単一のコースを修了することにこだわらず、複数のコースを融通的にグループ化したブロックを修了するために必要な要件のことをいいます。ブロックを修了するためには、学生別履修要件表のブロック行に設定されている単位数をクリアすることを必要としています。ブロックを構成するコースについては、基本的に当該のコース修了を必要としませんが、ブロック行にコース数を指定する場合及びコース行に網掛けを付している場合には、コース修了要件も修了しなければなりません。

なお、単位数に網掛けを付したブロックについては、コースカリキュラムを修了するために必修となるブロックです。

Q：ブロック修了要件の単位数ですが？

A：ブロック行については、3つのパターンにより単位数等を定めています。例えば、3つのコースA、B及びCから成るブロックにおいて、そのブロック行に『6-』と記述されていたら、そのブロックを修了するためには、コースA、B及びCの授業科目から、最低6単位以上の単位を修得しないとけません。また、『6-8』と記述されていたら、コースA、B及びCの授業科目から、最低6単位以上の単位を修得することは同じですが、8単位を超えた単位については、卒業に必要な単位に算入されません。これ以外には他、『1コース6単位』と記述されていたら、コースA、B及びCのいずれかの1つのコース修了要件を満たし、最低6単位以上の単位を修得しないとけません。このパターンの場合には、ブロックを構成するコースのコース修了要件を考慮しないとけないので、留意してください。

Q：ブロックにおける単位の数え方は？

A：複数のコースから成るブロックにおいて、ある1つの授業科目について、複数のコースに○付けされている場合には、その授業科目の単位の修得によりコースA及びコースBどちらのコースにも、単位に数えることができますが、ブロック要件の単位数においては、その授業科目分の単位数しか数えることはできません。

(4) コースカリキュラムの修了要件

コースカリキュラムの修了要件とは、学生別履修要件表の学生区分ごとに定められた卒業要件総単位数を満たし、必修となっているそれぞれのブロック修了要件及びコース修了要件をすべて満たすことにより修了することができます。

Q：コースカリキュラムを履修していく手順を教えてください？

A：コースカリキュラムについては、コースカリキュラムマトリックス表を注意深く確認しながら、自分自身がどのように履修し、単位を修得していくのかを発見していくことが要求されます。コースカリキュラムに対するアプローチの方法として、以下の手順を示しておきましょう。

- ① まず、学生別履修要件表において、学生のみなさん一人一人に適用される学生区分を探してください。
- ② 自分自身の学生区分を確認したら、学生区分ごとに単位数の記載のあるコースやブロックを確認してください。
- ③ 確認したコースやブロックの中から、履修するコースやブロックを選択して、コースマトリックス表において、選択したコースやブロックを構成している丸付けされた授業科目や単位数等を確認してください。
- ④ 確認した授業科目の中から、共通教育授業時間割や共通教育シラバスを参照にしながら、履修計画をたててください。
- ⑤ このような手順を繰り返しながら、学生別履修要件表に設定されている一つ一つのコースやブロックの単位数をクリアしていくように、授業科目を選択していきます。
- ⑥ 最終的には、学生別履修要件表に設定されているすべてのコース及びブロックの単位数及び卒業要件総単位数をクリアしているか、確認することになります。

## IV. 共通教育科目の履修上の注意

### 1. 履修科目の登録の上限について

#### (1) 履修科目の登録の上限とは

履修科目の登録の上限とは、前期または後期において、履修登録できる授業科目の総単位数に上限を設定することをいいます。履修登録の上限を設定することは、前期または後期において、履修登録できる授業科目数を制限することによって、学生のみなさんに無理な負担を強いることなく、十分な学修効果をあげる学習環境をつくることを目的としています。

なお、履修科目の上限については、所属する学部や学科等により異なっていますので、履修届を記入する際には、以下を参照にしながら、上限の単位数を超えないように、履修登録をしないといけません。

学 部	学 科 ・ 課 程	履 修 制 限		備 考
		前 期	後 期	
人 文 学 部	すべての学科	26単位	26単位	
教 育 学 部	すべての課程・コース	26単位	26単位	
経 済 学 部	すべての学科・課程	26単位	26単位	
理 学 部	すべての学科	26単位	26単位	
医 学 部	医 学 科	30単位	30単位	
	保 健 学 科	25単位	25単位	
工 学 部	すべての学科	— 単位	— 単位	
農 学 部	生物資源環境科学科	22単位	24単位	推奨単位数
	生物機能科学科	24単位	24単位	〃
	獣 医 学 科	30単位	30単位	〃

#### (2) 対象とならない授業科目

履修科目の登録の上限の対象とならない授業科目については、所属する学部により異なっていますので、所属する学部の教務担当係の指導に従ってください。

なお、共通教育科目においては、履修科目の登録の上限の対象とならない授業科目については、以下のとおりです。

- ◆ 自然科学入門分野の授業科目(『数学入門1』, 『物理学入門2』等の授業科目)
- ◆ 認定による授業科目(既修得単位認定, TOEICによる単位認定等された授業科目)
- ◆ 前期または後期クォーター2におけるTOEIC指導の単位(1単位)
- ◆ その他, 卒業に必要な単位数に算入されない授業科目

### 2. 英語の履修について

#### (1) 英語のカリキュラムについて

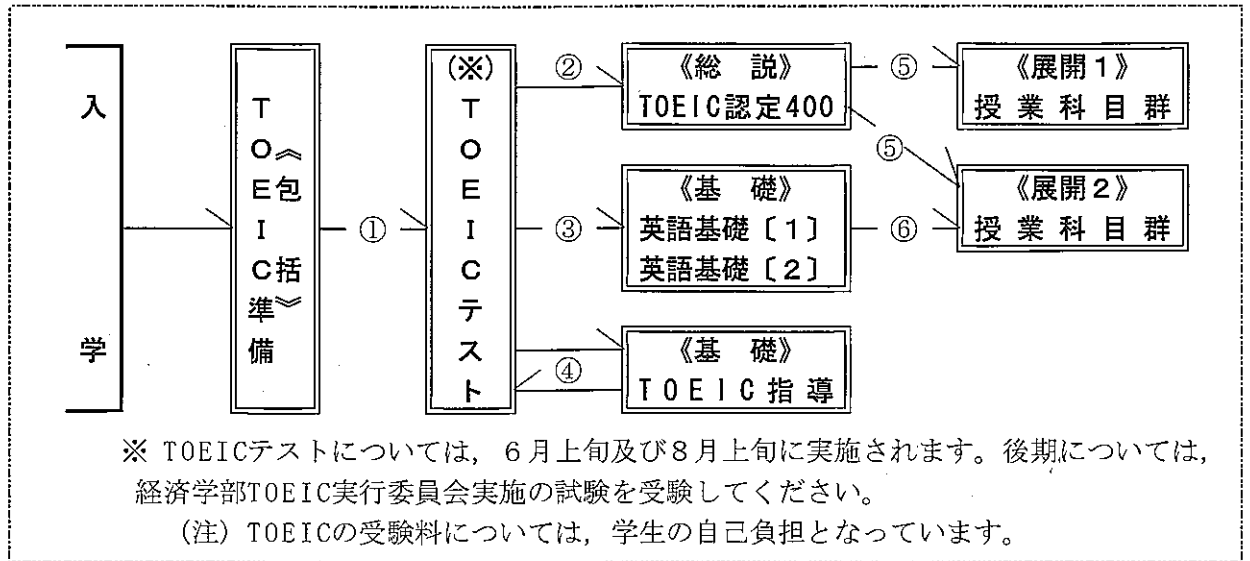
英語のカリキュラムについては、英語の実用能力の養成を基本として、そのベースの上に特殊な技能の修得を目指すカリキュラムとなっています。その実用能力を測るための1つの尺度として、TOEICを導入し、そのスコアに応じた能力別少人数クラスの授業を開設しています。

まず、前期クォーター1に行われるTOEIC準備(必修)により、TOEICテストに向けての準備を行います。この授業の最後において、履修者全員にTOEICテストの受験を義務づけています。このテストによって、学生のみなさんの現在の英語力を確認することができますので、前期クォーター2以降の授業科目のクラスを選択する際のプレースメント・テストとしても用いています。つまり、TOEICテストのスコアに応じて、『基礎科目』の履修が必要な学生とより難易度の高い内容を扱う『展開科目』を受講する人とに分かれて、授業科目を選択していくことになります。

(2) 英語の単位修得の仕組みについて

英語のカリキュラムにおける単位修得の仕組みについては、以下の図のように示されます。

なお、TOEICテストの日程及び受験手続等については、掲示等により指示しますので、特に留意しておいてください。



① 学生は、前期クォーター1において、指定クラスのTOEIC準備を履修し、6月上旬のTOEICを受験すれば、TOEIC準備(必修)の単位(1単位)について、そのスコアとは関係なく、授業態度と課題の成果に基づき評価し、単位を授与します。

② TOEICのスコアが400点に到達した学生については、TOEIC認定400の認定を受け、単位認定の申請の際に未修得の基礎の授業科目の単位(3単位)をすべて認定します。

③ TOEICのスコアが300点に到達した学生については、TOEIC指導の単位(1単位)を認定し、続いて英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕を履修することになります。

なお、英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕を履修しながら、TOEICテストを受験することができます。その時点において、TOEICのスコアが400点に到達した学生については、履修中の英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕の単位を認定します。ただし、TOEICのスコアが400点に到達しなかった学生については、引き続き英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕を履修してください。

④ TOEICのスコアが300点に到達しない学生については、スコアをクリアするまで、TOEIC指導の単位を修得することができませんので、繰り返しTOEIC指導を履修してください。

なお、TOEIC指導と英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕については、並行して履修することができます。

⑤ ②に該当する学生については、展開1及び展開2の授業科目から選択して、履修することができます。ただし、授業科目の内容及びレベルを考慮すると、展開1の授業科目から選択して、履修することを薦めます。

⑥ ③に該当する学生のうち、英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕の単位を修得した学生については、展開2の授業科目群から選択して、履修することができます。展開1の授業科目群から選択して、履修することはできません。

(3) 英語のカリキュラムにおける科目類型

英語のカリキュラムにおいては、TOEICのスコアに応じて、科目類型を設定して、学生のみなさん一人一人の能力あった授業科目を開設しています。

◆ 包括科目 [(TOEIC準備(1単位))]

学生のみなさんの英語力のレベルにかかわらず、持てるレベルに応じた英語力を発揮できるように開講された授業科目です。この授業科目については、必修科目となっていますので、単位を修得できないと卒業できません。



◆ 基礎科目

基礎の授業科目については、TOEICのスコアが400点に到達しなかった学生のために開設されています。

◆ 総説科目〔(TOEIC認定400(0単位))〕

この授業科目については、単位数を設定していませんが、TOEICのスコアが400点に到達することにより、基礎の授業科目(TOEIC指導、英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕)の単位をすべて認定します。

経済学部及び医学部の学生については、必修科目となっていますので、400点をクリアできるように、TOEICの学習をしっかりと励んでください。

◆ 展開科目：展開1

展開1の授業科目については、TOEICのスコアが400点に到達した学生のみ履修することができます。各授業科目の内容については、担当教官により異なっており、バラエティに富んだ内容となっていますので、共通教育シラバスを参照しながら、履修してください。

◆ 展開科目：展開2

展開2の授業科目については、TOEICのスコアが400点に到達していない学生においても、基礎の授業科目の単位をすべて修得した学生については、履修することができます。展開2の授業科目については、展開1と比較すると、限られた授業科目数ですが、経済学部及び医学部医学科においては、必修科目に指定された授業科目もあります。

(4) 英語の履修のための授業科目の紹介

英語のカリキュラムにおいて、開設されている授業科目については、以下のとおりです。また、各授業科目における履修対象者、授業内容及び成績評価の概要を示していますので、自分自身の英語の勉強の履修計画をつくる際の参考にしてください。

分野	授 業 科 目	設 置	科目類型	単位数
英 語	TOEIC準備	共通	包括	1
	TOEIC指導	共通	基礎	1
	英語基礎〔1〕	共通	基礎	1
	英語基礎〔2〕	共通	基礎	1
	TOEIC認定400	共通	総説	0
	実践総合英語	共通	展開2	2
	Comprehensive English(By Native Speakers[1])	共通	展開2	2
	Comprehensive English(By Native Speakers[2])	共通	展開1	2
	英語リーディング	共通	展開1	2
	英語ライティング	共通	展開1	2
	英語特別演習	共通	展開1	2
	TOEIC認定500(TOEFL450)	共通	展開1	2
	TOEIC認定600(TOEFL500)	共通	展開1	2

◆ TOEIC準備(1単位)〔包括〕：前期クォーター1

《対 象》 1年生全員(クラス指定、クラス規模：40名程度)

《授業内容》 開講するすべてのクラスにおいて、統一シラバスを使用により授業内容を統一した授業です。統一テキスト(『速習TOEICテスト トータルトレーニング』)を使用し、TOEICテストに関するオリエンテーションとTOEICテストを実際に受験します。英語の学習の習慣付けを行いながら、みなさんの能力を最大限に発揮して、高いスコアを獲得できるように、TOEICテストの出題形式及び出題内容に関する指導を行います。課題については、CDを聴きながら行う自習課題(指定ノート)が、5週間一通算30日にわたり課されます。それは、TOEICテストで最初の45分100問の Listening Section に対応できるだけのリスニング力をつけること及び毎日の英語学習を行う習慣を形成するために課されてい

るのです。最初の45分を乗り切って、さらに気力の充実している人が、TOEICテストを克服する秘訣です。この授業の目的と意義とを理解して、自分自身の目標のスコアを設定して、できるだけ多くの学生のみなさんが、400点以上クリアできるように努力してくれることを望みます。

《成績評価》 出席+自宅学習課題(「自習課題ノート」提出状況)、担当教官からのその他の課題により評価します。ただし、2回以上(欠席届による公欠を含む。)欠席した学生の成績については、『不合格』となります。

◆ TOEIC指導(1単位) [基礎]:前期クォーター2以降,前期または後期の各クォーター

《対象》 TOEICスコア300点未満の学生(クラス規模:20名程度)

《授業内容》 6月の共通教育英語部会主催のTOEICテストにより、スコアが300点を超えることができなかった学生に対して、300点以上(願わくは、400点以上)を目指す特訓クラスです。TOEIC準備に引き継いで、TOEIC受験のノウハウを指導し、TOEICテストのための学習を確実なものとするための授業です。それぞれの担当教官の様々な工夫によって、重点的な強化法に基づく指導を行っていくことがあります。対象となる学生は、300点をクリアするまで繰り返し受講することになります。共通教育シラバスを見ると、どの担当教官が何をどこまで指導するか、どのような経緯により指導されるか、よく分かります。担当教官の記載内容こうしたことを踏まえて担当教官を選択してください。

なお、工学部夜間主コースの学生については、工業英語3級とTOEICの300点とを同等に見なし、単位認定を受けることができます。

《内容例》 受講者は、自分自身のノートパソコンを使用して、TOEICテストのためのコンピュータ教材 NetAcademy の初級・中級コースについて、7週間の期間にそのすべてをやり遂げる授業を行う担当教官もいます。この授業においては、受講者は、ノートパソコンを所持し、学内LANを利用できる学生に限られますが、LANの接続の方法等を知らなければ、その指導も行います。当然、学内LANを使用した、学内における自習を求められます。

《成績評価》 成績評価については、以下のいずれかの方法により行われますが、いずれの評価方法を採用するかについては、担当教官の判断によります。ただし、いずれの評価を採用したとしても、TOEICのスコアの300点をクリアしないと、『不合格』となります。

- i) TOEICテストのスコアにより評点を算出し評価する方法
- ii) 担当教官から指定された作業や課題により評価する方法
- iii) i)及びii)の折衷により評価する方法

◆ 英語基礎〔1〕(1単位)及び英語基礎〔2〕(1単位) [基礎]:後期

《対象》 TOEICスコア400点未満の学生(クラス規模:40名程度)

《授業内容》 基本的な文法の理解及び語彙力の強化することが、この授業の目的です。

開講するすべてのクラスにおいて、統一シラバスを使用により授業内容を統一した授業です。統一テキスト(『英語基礎』)を使用し、文法の基本事項の総まとめ及び練習問題による知識の定着を目指します。この授業の受講者に対しては、自宅学習の課題として、単語学習、各課の内容の予習と練習問題の予習を“毎回”課します。授業においては、各課の文法事項の説明及び自習課題の確認、その内容に関する担当教官の独自の小テスト、授業時間の終わりに実施するその課のテストを行っていきます。担当教官によっては、テスト終了後に直ちに採点(翌週の授業の際に返却される場合もあります。)し、解答及び解説をしていきます。また、テキスト巻末の単語集から出題する単語テストについても、併せて実施されます。この授業を履修することによって、基本的な文法力と単語力をしっかり身に付けてください。当然のことですが、予習を怠ってしまうと、この授業の目的及び意義も損なわてしまいます。

《成績評価》 以下の算出方法に基づいて、1000点満点により評価します。

(各課のテスト:100点×7回)+(単語テスト:40点×5回)+(担当教官の裁量点:100点)

◆ 実践総合英語(2単位) [展開2]: 前期または後期

《対 象》 TOEICスコア400点以上を目指す学生

この授業科目については、レベル指定されており、すでにTOEICスコア400点以上学生については、原則として、受講できません。展開1の授業科目群を履修してください。ただし、TOEICスコア400点以上学生のうち履修を希望する学生については、理由を明らかにして、担当教官の許可を得られれば、受講することができます。

《授業内容》 TOEIC受験対策を必ずしも直接の目標にする必要はありませんが、この授業科目については、スコア400点以上の実力をつけることを目的としています。本格的なリスニング力や読解力を目指す段階の授業科目であるため、リスニングとリーディング強化する内容を盛り込む授業となっています。TOEICテストのスコアアップを重点目標にする場合には、パート1, 2, 5, 6において確実に得点し、さらにパート3, 4やパート7においてある程度の得点をマークできるように訓練する段階の授業となっています。

展開1の英語リーディングや英語ライティングと比較すると、授業のレベルが明らかに異なります。この授業科目においては、原則として、コミュニケーションの4つのスキル(Speaking, Listening, Writing, Reading)について、授業において全般的に取り扱うこととなります。もちろん、この授業科目においても、相当量の自宅学習を要求されます。

《内容例》 NetAcademyの初級・中級コースを仕上げます。単に問題に答えるだけでなく、正しい発音を身に付ける訓練も行ないます。具体的には、Speed Listening を使用して、学習中の教材の文章を繰り返し発音する訓練について、授業時間内に30分間設定します。Native Speakerの発音に続いて、Normal Speedにより正しく読めるようになることを目指します。自分自身が正しく発音できることが、聞き取り能力を高める条件なのです。

授業時間だけでは、『初級・中級コース』を仕上げることは不可能ですので、授業時間以外にも、NetAcademyの学習可能な場所、あるいはノートパソコンを学内LANに接続して、自学自習する必要があります。

《受講条件》 以下のとおり、受講条件を設定しますので、留意してください。

- i) ノートパソコンを必携とします。
- ii) 履修するにあたっては、自分自身のTOEICスコアを担当教官に提出してください。
- iii) 履修期間中にTOEICテストを1回以上受験し、当該テストのスコアを担当教官に報告してください。

《成績評価》 与えられた課題の学習を完了し、出席の欠格条件に該当しない、以下の3つのうちのいずれかの条件を満たした学生について、合格となります。

- i) 履修期間中に受験しTOEICテストにおいて、400点以上のスコアをクリアする。
- ii) 履修期間中に受験しTOEICテストにおいて、自己のスコアを50点以上更新する。
- iii) 学期末定期試験において、60点以上の評点をクリアする。

◆ Comprehensive English(By Native Speakers[1])(2単位) [展開2]: 前期

《対 象》 Recommended entry level 400 - 460 TOEIC score

《授業内容》 The objective is to increase your abilities in writing, reading (understanding as well as speed), listening, and speaking (including pronunciation and fluency) through using dynamic, relevant content that is inter-related through all of the various skills focused upon during the course.

If you achieve a mastery level of 80% or better, this should also show a concomitant rise of 50 points or better in your TOEIC score. If you wish to increase their TOEIC score by 100 or more, then you will have to invest an additional 50 to 100 hours of outside study through materials recommended by the teaching staff to include, but not limited to, CALL (computer assisted language learning) materials available on campus, VOD (video on demand), NHK English radio lessons, various outside reading resources, on-line reading master (developed by Dr. Judith Johnson), vocabulary-building books and materials, and other language-rich resources. A list of available resources and options should be made available to you at the beginning of the term.

《成績評価》 Term grade will be based on:

Final Evaluation (50% of total grade):

- Speaking : 35%
- Listening : 20%
- Writing : 20%
- Content : 15%
- Pronunciation (Sound Approach) : 10%

Internal/External Criteria (50% of total grade):

- Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores) : 35%
- Class Participation : 20%
- Homework (essays/outlines/grammar exercises) : 35%
- Attendance: 10%

◆ Comprehensive English (By Native Speakers[2]) (2単位) [展開1] : 後期

《対象》 Recommended entry level 460 - 600 TOEIC score

《授業内容》 The objective is to increase your abilities in writing, reading (understanding as well as speed), listening, and speaking (including pronunciation and fluency) through using dynamic, relevant content that is inter-related through all of the various skills focused upon during the course.

If you achieve a mastery level of 80% or better, this should also show a concomitant rise of 50 points or better in your TOEIC score. If you wish to increase their TOEIC score by 100 or more, then you will have to invest an additional 50 to 100 hours of outside study through materials recommended by the teaching staff to include, but not limited to, CALL (computer assisted language learning) materials available on campus, VOD (video on demand), NHK English radio lessons, various outside reading resources, on-line reading master (developed by Dr. Judith Johnson), vocabulary-building books and materials, and other language-rich resources. A list of available resources and options should be made available to you at the beginning of the term.

《成績評価》 Term grade will be based on:

Final Evaluation (50% of total grade):

- Speaking : 35%
- Listening : 20%
- Writing : 20%
- Content : 15%
- Pronunciation (Sound Approach) : 10%

Internal/External Criteria (50% of total grade):

- Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores) : 35%
- Class Participation : 20%
- Homework (essays/outlines/grammar exercises) : 35%
- Attendance: 10%

◆ 英語リーディング(2単位) [展開1] : 前期または後期

《対象》 TOEICテスト400点以上の学生

《授業内容》 受講者のリーディング能力を養成することが、この授業科目の目的です。そのために、担当教官それぞれ特徴を活かしたリーディング教材を選定して、授業を進めていきます。例えば、創造性や表現力の豊かな文学作品、情報を素早く的確に把握することを要求される英字新聞、特定の専門領域に関する硬質な英文エッセイ等の多種多様なものが考えられます。

それぞれの授業においては、ベーシックな英文解釈、精密な翻訳、大意要約、速読、パラグラフリーディング等の様々なアプローチが採用されており、例えば、TOEICテストにおいて要求される速読に対応でき、翻訳文として読めるまでに完成した日本語に読解する

ことも、この授業の目的となります。また、読解力を高めるためには、詳述された英文法の涵養が必要であるため、それぞれの教材に準じて指導がなされます。この授業科目の最終的な目標とえば、英文読解を通じての論理的な思考力と鋭敏な感受性を身につけること、さらに正確かつ的確及び迅速な情報収集能力を身につけることなのです。

この授業においても、自習課題による自宅学習を相当分に要求されます。出席については、厳しくチェックされ、欠席については、欠格条件に大きく寄与することになります。《成績評価》 出席率、授業への参加度、担当教官によるレポートや小テスト、定期試験の成績について、総合的に評価します。

◆ 英語ライティング(2単位)〔展開1〕：前期または後期

《対象》 TOEICテスト500点以上を目指す学生

《授業内容》 この授業科目については、短い日本語の1文を単語力や文法力を試すために英訳する作業とは違い、まとまった文章を適切な英語(手紙、日記、報告文等)により作成して、自己表現することができるような文章作成能力の養成を目的としています。しかし、文章の切り口や言葉遣いは異なっている、次の点については、英語を書くときに共通する大切な事項です。

- i) 適切な指示語や接続語句を使用して、文と文をつなぐことができる。
- ii) パラグラフの概念と構造を理解することができる。
- iii) 大きな文法的な間違いをすることなく、内容的にも一貫性のある400語程度の英文(サマリーやアウトラインを含む。)を言語の使用場面に応じて書くことができる。

このようなことができるようになるためには、自分自身の手により文章を書いてみて、その手応えにより英語を書く要領を身につけることが必要となります。

そのため、この授業においても、自習課題による自宅学習を相当分に要求されます。自習課題に取り組む際には、少なくとも英英辞典及び類語辞典(thesaurus)を準備して、面倒と思わずに辞書を活用してください。手抜ききの英文や引き写しの英文については、担当教官にあっては、すぐに見破られてしまいます。出席については、厳しくチェックされ、欠席については、欠格条件に大きく寄与することになります。

《成績評価》 出席率、授業への参加度、担当教官によるレポートや小テスト、定期試験の成績について、総合的に評価します。

なお、出席の取り扱いについては、3回以上欠席(欠席届による公欠を含む。)すると受講資格を失います。また、自習課題の提出しなかった学生については、1回の欠席として取り扱います。

◆ 英語特別演習(2単位)〔展開1〕：前期または後期

《対象》 様々な目的と目標を持ったTOEICテスト400点以上の学生

《授業内容》 この授業科目については、担当教官がどのような研究をやっているのか、専門分野を垣間見ながら参加してみよう、もっと総合的に高度な英語力をつけよう等の様々な目的を持った学生が、シラバスに記載されている担当教官の授業内容、目的及び目標を考慮して、選択する授業科目です。

この授業科目の最大の特徴とえば、担当教官を中心とした講義形式の授業を行うのではないということです。授業を進行させる担い手となるのは、担当教官というよりは受講者であり、担当教官については、受講者の発表にコメントを加えたり、意見や他の見解を述べる等の中心に行っていきます。つまり、先輩から聞かされるゼミ(演習)に似た授業です。自己表現を考えている学生については、十分に有意義な授業となり得るでしょう。また、担当教官の最も“おいしい”ところや人間味を味わうことができる授業ともなり得るはずで、大学の“知”について、ひしひしと感じられる授業であるとも言えます。じっくりと英語を勉強し、物事を考えるという流れが、授業の主流となります。

このような演習形式の授業については、受講者と担当教官の相互作用により進行していきますから、必ずしもシラバス通りに進行していかないこともあります。つまり、受講者

が準備または学習してきたことをベースに行われる授業ですから、相当量の自習課題や自宅学習要求されます。

出席については、もちろん毎回出席することを原則とします。発表者や議論をする受講者が、無断欠席した場合には、授業そのものが成立しません。やむを得ない理由により欠席する場合には、事前に担当教官に連絡することは、最低限のマナーでしょう。

《成績評価》 共通教育シラバスに明記された担当教官の成績評価方法により評価する。

(5) クォーター2におけるTOEIC指導の履修登録

前期または後期クォーター2におけるTOEIC指導の履修登録については、前期または後期の学期の始めに提出する履修届については、記入する必要はありません。前期または後期クォーター1において受験したTOEICテストのスコアにより、前期または後期クォーター1の授業の終了後の所定の期間に、教務課共通教育係において、履修登録を行ってください。

なお、前期または後期クォーター2のTOEIC指導の1単位については、履修科目の登録の上限単位数に含まれません。

(6) 単位認定の取り扱いについて

TOEICによる単位認定を申請する学生については、TOEICのスコアシートを持参して、**教務課共通教育係**にある『TOEICによる共通教育単位認定申請書』を記入し、**教務課共通教育係**に申請してください。認定された授業科目の単位については、申請した学期の単位として認定されますので、授業科目の履修の選択する際における科目タイプの効果については、申請した学期の翌学期から、反映されることになります。

なお、1年次の前期においては、『TOEICによる共通教育単位認定申請書』を提出する必要はありません。

Q : TOEICによる単位認定と履修科目の上限との関係は？

A : TOEICによる単位認定においては、履修届により履修登録していない授業科目における認定単位数については、履修科目の登録の上限に含まれません。例えば、1年次の前期において、TOEICスコア430点に基づき、『英語基礎〔1〕』及び『英語基礎〔2〕』の単位を認定された場合には、履修登録によらず認定により修得した2単位ですので、その単位により履修科目の登録の上限単位数を超えたとしても、卒業に必要な単位数に算入することができます。

(7) TOEFLの換算について

TOEFLを受験した学生については、TOEFLのスコアシートを添付し申請することにより、TOEICのスコアに換算して、以下の授業科目の単位を認定することができます。詳細については、教務課共通教育係に問い合わせてください。

分野	授 業 科 目	設 置	科目類型	単位数	認 定 条 件 ス コ ア	
					TOEFL	CBT
英 語	TOEIC認定400	共通	総説	0	4 3 5	1 2 0
	TOEIC認定500(TOEFL450)	共通	展開1	2	4 5 0	1 3 0
	TOEIC認定600(TOEFL500)	共通	展開1	2	5 0 0	1 7 3

(8) 自習等について

英語の授業科目の単位の認定については、成績により厳密に行われます。英語の能力を高めるためには、授業を受けるだけでなく、自宅学習もまた大切です。それぞれの授業においても、相当量の課題を提示しますので、自宅学習を怠らないように留意してください。

また、図書館やメディア棟の情報処理演習室において、自習ソフト(ALC Net Academy)を利用することができますので、積極的に活用してください。

### 3. 初習外国語の履修について

#### (1) 初習外国語のコース設定について

本学において、開設されている初習外国語については、ドイツ語、フランス語、中国語及びハンゲルが開設され、それぞれ入門コース、基本コース及び発展コースの3つのコースの設定に基づいて、履修することになります。

なお、そのコースの内容については、以下のとおりです。

入門コース	各外国語の初歩を学習するためのコースです。各外国語の <b>入門</b> の授業を週1コマ受講し、前期2単位及び後期2単位の計4単位を修得し、修了します。
基本コース	各外国語の基礎をひとつと修得するためのコースです。各外国語の <b>初級</b> の授業を週2コマ受講し、前期4単位及び後期4単位の計8単位を修得し、修了します。
発展コース	外国語の基礎をひとつと修得するだけでなく、さらにその運用能力を發展させる訓練を行うためのコースです。各外国語の <b>初級</b> の授業を週2コマ履修し、前期4単位及び後期4単位の計8単位を修得することに加えて、さらにコース内の他の授業科目を2単位以上修得し、修了します。

#### (2) 学部別の初習外国語の履修コースについて

各学部の指定する初習外国語の履修コースについては、以下のとおりです。

なお、履修コースにおける学部別の単位数等については、各学部の履修の手引きに掲載されているコースカリキュラム・マトリックス表及び以下の一覧表を参照して、履修してください。

学 部 等			入 門 コ ー ス	基 本 コ ー ス	発 展 コ ー ス	備 考	
人 文 学 部			×	少なくとも1コース選択必修		(注)参照	
教 育 学 部	学校教育 教員養成 課程	教科教育	1コース選択必修	×	×		
		美術		1コース選択必修			
	実践臨床教育課程	国際理解教育	1コース選択必修		×		
		上記以外のコース	0～1コース選択				
		情報科学 教育課程	表現情報処理	0～1コース選択	×	×	
	健康科学 教育課程	スポーツ健康科学	数理情報	1コース選択必修	×	×	
			生活健康科学	0～1コース選択			
総合文化 教育課程		国際文化	×	0～1コース選択			
		文芸・芸能	0～1コース選択				
経 済 学 部			×	1コース選択必修	×		
理 学 部			0～1コース選択	×	×		
医 学 部			1コース選択必修	×	×		
工 学 部			0～1コース選択		×		
農 学 部	生物資源環境科学科	0～1コース選択	×	×			
	生物機能科学科	1コース選択必修	×	×			
	獣医学科	0～1コース選択	×	×			

#### (注) 人文学部

① 人文学部においては、初習外国語を最高16単位まで卒業に必要な単位に算入できます。このうちの8単位については、ドイツ語、フランス語、中国語またはハンゲルから1か国語を選択し、本学が開設している各外国語初級1及び2を必ず修得してください。

② 1か国語8単位を超える部分についての単位の修得方法については、次ページのとおりです。  
なお、8単位の範囲内ならば、i, ii, iiiを組み合わせて修得することもできます。

- i) ①で選択した外国語の発展コースの授業科目を修得する。
- ii) ①で選択した外国語以外の本学開設の言語を選択し修得する。  
この場合には、必ず基本コースの授業科目を修得してください。
- iii) 放送大学開講のスペイン語またはロシア語を修得する。  
この場合には、どちらの言語についても、『Ⅰ』を2単位、『Ⅱ』を2単位の合計4単位まで修得することができます。

### (3) 初習外国語の履修について

- ① 各授業科目において、1という数字を付している授業科目については、前期に開講する授業を示し、2という数字を付している授業科目については、後期に開講する授業科目です。後期に開講する授業科目については、それぞれ前期に開講される1の授業を履修していることを前提として、授業を行います。従って、これらの科目を履修する場合には、前期の1から履修することが望ましいということになります。
- ② ドイツ語初級、フランス語初級、ハングル初級については、同じ担当教官が行う週2回の授業を1つのセットとして開講されていますので、両方の授業を併せて履修してください。単位については、各期4単位ずつまとめて認定されます。
- ③ 中国語初級については、[1 aと2 a]、[1 bと2 b]を併せて履修してください。単位については、それぞれ2単位ずつ認定されます。
- ④ 各外国語発展コースの展開1の授業を受講できる学生については、総説の授業を修得した学生、すなわち各外国語初級1及び2の合計8単位を修得した学生に限られます。
- ⑤ 各外国語発展コースのうち、ドイツ語会話、フランス語会話、中国語初級会話、ハングル初級会話については、展開2の授業ですので、1年次に履修することができます。特に、中国語初級会話については、中国語初級と同時進行の授業ですので、1年次の履修を基本としています。
- ⑥ 中国語を履修する学生については、さらに以下の説明と注意事項に留意してください。

#### ◆ 中国語入門1及び中国語入門2について

前・後期週1回、中国語の発音、基本表現・語彙を学習し、中国語の初歩的な基礎語学力の修得を目指す授業です。また、コトバの文化・社会的背景の基本的事項も折にふれて紹介し、中国理解を深めます。

中国語入門1と中国語入門2については、必ず同一の曜日・時限・担当教官のクラスにて受講してください。後期からのクラス変更については、認められません。

定員については、各クラス50名です。定員を上回る場合には、初回の授業において、抽選を行いますので、必ず出席してください。

#### ◆ 中国語初級1 a及び中国語初級2 aについて

前・後期週1回、中国語概説、発音指導、文型・文法等の習熟、現代中国事情の理解に重点をおいた日本人教官の指導による授業です。

中国語初級1 aと中国語初級2 aについては、必ず同一の曜日・時限・担当教官のクラスにて受講してください。後期からのクラス変更については、認められません。

定員については、各クラス30名です。定員を上回る場合には、初回の授業において、抽選を行いますので、必ず出席してください。

#### ◆ 中国語初級1 b及び中国語初級2 bについて

前・後期週1回、発音指導、表現、語彙、会話、聞き取り等などのコミュニケーション能力の育成と中国文化事情の理解に重点をおいた中国人教官の指導による授業です。この授業科目においては、基本的に中国語のみによる指導が行われます。

中国語初級1 bと中国語初級2 bについては、必ず同一の曜日・時限・担当教官のクラスにて受講してください。後期からのクラス変更については、認められません。

定員については、各クラス30名です。定員を上回る場合には、初回の授業において、抽選を行いますので、必ず出席してください。



◆ すべてのクラスの抽選が完了した後において、抽選に外れて、いずれのクラスにも所属できなかった中国語の履修を希望する学生については、後日(掲示により指示します。)、履修相談日を設定しますので、必ず出席してください。

⑦ ハングルを履修する学生については、さらに以下の説明と注意事項に留意してください。

◆ ハングル入門1及びハングル入門2について

定員については、50名です。定員を上回る場合には、初回の授業において、抽選を行いますので、必ず出席してください。

◆ ハングル初級1及びハングル初級2について

定員については、50名です。定員を上回る場合には、初回の授業において、抽選を行いますので、必ず出席してください。

(4) 外国人留学生等の履修について

外国人留学生については、初習外国語の1つのコースとして、日本語のコースを選択できます。日本語のコースの単位設定等については、所属する学部等により異なりますので、各学部の履修の手引に掲載されているコースカリキュラム・マトリックス表を参照して、履修してください。

なお、中国語を主な使用言語とする学生及び中国語使用圏にて多年にわたり中国語による教育を受けた学生(日本人学生を含む。)については、中国語の授業科目を履修できません。

#### 4. 自然科学入門分野の履修について

(1) 自然科学入門分野の授業科目について

自然科学入門分野の授業科目については、数学、物理学、化学及び生物学分野の授業科目を履修するために必要な基礎能力を養成することを目的として、各分野の高等学校レベルの学習内容を再教育することにより、大学入学までに身に付けておくべき知識を補強する授業科目です。

従って、自然科学入門分野の授業科目の単位については、卒業に必要な単位に算入されませんので、留意してください。

なお、自然科学入門分野の授業科目については、前期のクォーター授業として、同一の曜日・時間に連続して開講されています。

(2) プレースメント・テストについて

自然科学入門分野の授業科目については、プレースメント・テストを実施して、その結果に基づき、それぞれの授業科目の履修対象者を判定します。

プレースメント・テストとは、山口大学入学者選抜試験において、受験しなかった教科及び科目に関する基礎知識及び学力を判定するテストです。教育学部、理学部、医学部、工学部及び農学部において、数学Ⅰ、数学Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、化学Ⅰ、化学Ⅱ、生物学Ⅰ及び生物学Ⅱを履修するためには、当該の授業科目を学習するための基礎知識を判定するため、以下の受験免除要件に該当しない学生については、プレースメント・テストを受験しないといけません。

分野	授業科目	対応分野	受験免除要件
自然科学入門	数学入門1	数 学	山口大学個別学力検査の『数学(理系)』を受験した学生
	数学入門2		
	物理学入門1	物 理 学	大学入試センター試験の『物理』を受験した学生
	物理学入門2		
	化学入門1	化 学	大学入試センター試験の『化学』を受験した学生
	化学入門2		
	生物学入門1	生 物 学	大学入試センター試験の『生物』を受験した学生
	生物学入門2		

なお、プレースメント・テストの受験対象者等については、以下のとおり発表します。

《発表日時等》 平成15年4月3日(木) 16時(予定) / 共通教育掲示板

(3) プレースメント・テストの結果について

プレースメント・テストの結果等については、以下のとおり発表しますので、忘れずに確認してください。結果の確認をしなかったことにより、所定の授業を履修できなかったとしても、教務課共通教育係においては、いかなる対処もできません。

《発表日時等》 平成15年4月10日(木) 12時(予定) / 共通教育掲示板

(4) 自然科学入門分野の履修について

プレースメント・テストによって、基礎学力が不十分であると判定された場合には、前期に開講される対応する分野の自然科学入門分野の授業科目を履修していないと、数学Ⅰ、数学Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、化学Ⅰ、化学Ⅱ、生物学Ⅰ及び生物学Ⅱを履修することはできません。自然科学入門分野の授業科目を履修する際には、数学、物理学及び生物学分野については、数学Ⅰ、物理学Ⅰ及び生物学Ⅰと対応する分野の自然科学入門分野の授業科目とを並行して履修してください。ただし、化学分野については、前期の化学入門Ⅰ及び化学入門Ⅱの単位を修得した後に、後期に開講される化学Ⅰを履修してください。

なお、数学Ⅰ、数学Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、化学Ⅰ、化学Ⅱ、生物学Ⅰ及び生物学Ⅱを履修しなくても、自然科学入門分野の授業科目のみ履修することもできます。また、プレースメント・テストに合格した学生や受験免除要件に該当した学生についても、自然科学入門分野の授業科目の履修を希望する場合には、担当教官の判断により履修することができます。

## 5. 自然科学実験分野の履修について

(1) 自然科学実験について

自然科学実験分野において、文系学部の学生を対象とした『自然科学実験』を開講しています。

自然科学実験については、物理学、化学、生物学及び地球科学の各分野の基礎的な実験を行い、自然現象の見方や法則性の理解を深めることを目的としています。各分野の担当教官が、それぞれ3週間にわたり担当することになっています。

(2) 自然科学実験を除く自然科学分野の実験の授業科目の履修について

自然科学実験を除く自然科学分野の実験の授業科目の履修については、各学部の履修の手引に掲載されているコースカリキュラム・マトリックス表及び以下の一覧表を参照して、履修してください。

学期	曜日	時 限	授 業 科 目	対 象 学 生 等 ( ク ラ ス )
前 期	木	5～8	物理学実験 A	○自然, ○化地, ○生資, ○獣医
			化学実験 A	●化地, ○生機, ○獣医
			生物学実験	○自然
			地球科学実験	○自然, ○獣医
前 期	金	5～8	物理学実験 B	◎機械, ◎応化, ◎社建
			化学実験 B	◎機械, ◎応化, ◎社建
			生物学実験	○生資, ○生機
後 期	木	5～8	物理学実験 A	○自然, ●化地(化学), ○生資, ○獣医
			物理学実験 B	◎医学
			化学実験 A	○自然, ○生資
			化学実験 B	◎医学
			生物学実験	○自然
			地球科学実験	●化地(地球)
後 期	金	5～8	物理学実験 B	◎電気, ◎知能, ◎機材, ○看護, ◎検査
			化学実験 B	◎電気, ◎機材, ○看護, ◎検査
			生物学実験	◎獣医
			地球科学実験	○生資

(注) 対象学生等において、学科等の略称に付した記号については、以下のとおりです。

◎：当該授業科目を必修科目とする学科等

●：当該授業科目を選択必修科目とするが、履修することが望ましい科目とする学科等

○：当該授業科目を選択必修科目とする学科等

### (3) 実験オリエンテーションについて

授業科目によっては、各学期の授業開始前、実験オリエンテーションを行うものがあります。

原則として、このオリエンテーションに出席していない学生については、当該授業科目の履修を認めません。詳細については、共通教育掲示板に掲示しますので、見落とし等がないように留意してください。

## 6. 運動健康科学及びスポーツ運動実習の履修について

### (1) 運動健康科学の履修について

運動健康科学を必修とする教育学部及び経済学部商業教員養成課程の学生については、学年及びクラス指定された曜日・時限に履修してください。

また、運動健康科学を選択科目の単位として履修する者、教育職員免許状取得のために履修する者、再履修者については、以下の曜日・時限に履修してください。ただし、商業教員養成課程を除く経済学部の学生については、卒業に必要な単位に算入されません。

《後期》 火曜日 3・4時限、木曜日 3・4時限(人・理・医・農クラス)

### (2) スポーツ運動実習の履修について

スポーツ運動実習を必修とする教育学部及び経済学部商業教員養成課程の学生については、学年及びクラス指定された曜日・時限に履修してください。

また、スポーツ運動実習を選択科目の単位として履修する者、教育職員免許状取得のために履修する者、再履修者については、以下の曜日・時限に履修してください。ただし、商業教員養成課程を除く経済学部の学生については、卒業に必要な単位に算入されません。

なお、理学部及び農学部の学生のうち、教育職員免許状を取得するためにスポーツ運動実習を履修し、かつ物理学Iを履修する学生については、前期水曜日5・6時限において、スポーツ運動実習を履修し、前期水曜日7・8時限において、物理学Iを履修してください。これ以外の理学部及び農学部の学生については、前期水曜日5・6時限において、物理学Iを履修してください。

《前期》 水曜日 5・6時限、木曜日 5・6時限

《後期》 水曜日 5・6時限、木曜日 5・6時限

### (3) 選択種目の決定について

スポーツ運動実習を履修する学生は、各学期の第1週目の授業において、選択種目及び担当教官を決定しますので、第1体育館に必ず集合してください。

なお、履修希望者多数の場合には、抽選等により履修制限を行います。

### (4) 履修届の記入について

スポーツ運動実習については、選択した種目名及び担当教官まで、履修届に正確に記入してください。

### (5) 積み上げ履修について

スポーツ運動実習については、積み上げ履修可能な授業科目です。既に単位を修得した学生が、再び履修することができます。ただし、履修希望者多数の場合には、単位未修得の学生の履修を優先するために、履修できないことがあります。

ただし、工学部及び農学部の学生については、積み上げ履修を認められていませんので、留意してください。

## 7. フレッシュマン・セミナー(新入生合宿)について

### (1) フレッシュマンセミナー(新入生合宿)について

フレッシュマンセミナーとは、集団生活を通して、新入生同士、新入生と教職員あるいは新入生と上級学生の交流を主体として、1日でも早く本学に慣れ、大学生活を円滑に過ごすことができるためのガイダンスを行うことを目的として実施される授業科目です。

### (2) 開講時期等について

フレッシュマンセミナーについては、前期(4月1日～9月30日)の間に開講されます。開講時期やスケジュールについては、所属する学部により異なりますので、所属学部の教務担当係の指示に従って、必ず参加してください。やむを得ず欠席した学生については、相当分の授業等を課されることがあります。

## 8. 日本語・日本事情の履修について

### (1) 日本語コース及び日本事情コース

共通教育科目として、外国人留学生のためのコースとして、日本語コース及び日本事情コースを設定しています。

日本語コースにおいては、日本語中級Ⅱ、日本語上級、専門日本語の3つの授業科目を開設しています。日本語コースについては、聞く・書く・話す・読むの高度な四技能を養成するためのコースです。また、日本事情コースにおいては、日本事情中級及び日本事情上級の2つの授業科目を開設しています。日本事情コースについては、日本の文化及び社会を理解するためのコースです。

### (2) 日本語の授業科目について

日本語中級Ⅱ及び日本語上級については、学部や大学院における日本語による授業を理解し、授業における質問や発表、レポート作成等の教室活動に参加できる日本語能力の養成します。また、専門日本語については、科学日本語やビジネス日本語等のより専門的分野の日本語の文献を読み、より専門的な論文を書くために、それぞれの分野の日本語の語彙及び文体的特徴を学びます。

### (3) 日本語及び日本事情の履修について

日本語及び日本事情の履修を希望する外国人留学生については、前期または後期始めに実施する山口大学日本語能力テストを受験してください。みなさんの履修するクラスについては、当該テストの成績、日本語能力試験(日本国際教育協会、国際交流基金主催)の成績、過去の日本語学習歴等により決定されます。山口大学日本語能力テストを受験しなかった場合には、日本語及び日本事情の授業の履修を認めないことがあります。日程等については、掲示によりお知らせしますので、忘れずに受験してください。

なお、日本語及び日本事情の授業科目については、同じ授業科目名であっても、担当教官により使用するテキストや授業内容が異なりますので、積み上げ履修可能な授業科目としています。したがって、各授業科目の上限の単位数まで、卒業に必要な単位数に算入することができますので、

### (4) 山口大学日本語能力テストについて

山口大学留学生センターにおいては、独自の日本語能力テストの作成を目指して、試行的に山口大学日本語能力テストを実施しています。1年に2回ほど実施していますが、前期または後期の始めのテストについては、クラス分けの資料としています。

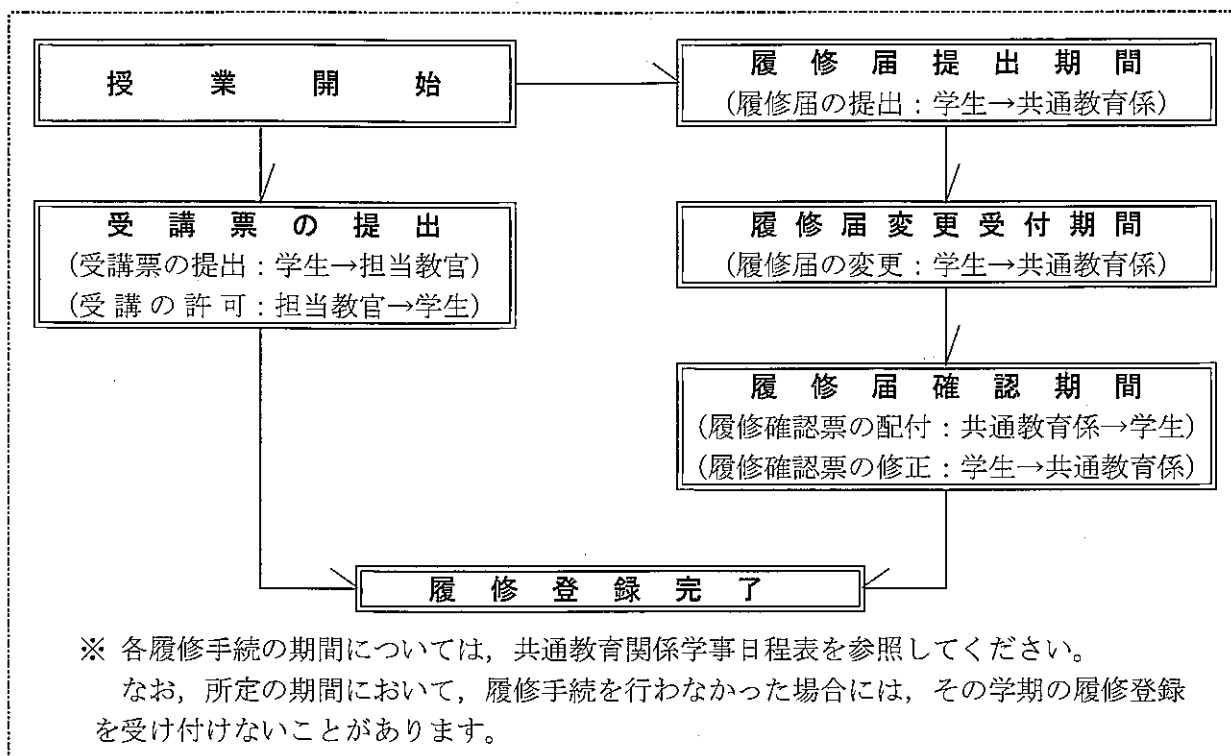
なお、日本語能力テストの結果については、それぞれの指導教官に通知されます。将来的には、大学院進学や奨学金申請の添付資料として、活用することも検討されています。

## V. 履修手続について

### 1. 履修手続について

#### (1) 履修手続の流れ

履修手続の流れについては、以下の図のように示されます。



#### (2) 受講票の提出

共通教育科目を履修する学生は、共通教育履修案内に綴じ込みの受講票に、必要な事項を記入して、原則として最初の講義時に、履修しようとする授業科目の担当教官に提出して、担当教官の承認を受けてください。

なお、履修希望者多数の場合には、受講制限を行う授業科目もありますので、最初の授業に必ず出席してください。

#### (3) 履修届の提出

新入生オリエンテーション等にて配付される履修届に、共通教育科目及び専門科目の履修する授業科目をすべて記入して、以下の提出期間に、教務課共通教育係に提出してください。ただし、経済学部学生については、教務課共通教育係及び経済学部学務第一係のいずれにも、履修届を提出してください。

履修届に記入していない授業科目、担当教官及び時間割コード等を誤記入した授業科目については、履修することができませんし、単位を修得することもできません。

《提出期間》 前期：平成15年4月18日(金)～平成15年4月24日(木) 17時(時間厳守)

後期：平成15年10月6日(月)～平成15年10月10日(金) 17時(時間厳守)

#### (4) 履修届記入上の注意

- ◆ 履修届の記入にあたっては、HBの黒鉛筆を使用し、記入例を参照にしながら、履修しようとする共通教育科目及び専門科目を正しく記入してください。授業科目等の記入の際には、まずこの履修案内の履修届(控)に記入し、その内容に誤記入等がないかを確認した後に、提出用の履修届に転記してください。

- ◆ 学籍番号については、学生証に記載してある学籍番号を正しく記入してください。学籍番号を誤記入すると、すべての授業科目の履修登録ができません。
- ◆ 住所については、アパート名及び部屋番号まで記入してください。
- ◆ 電話番号については、緊急の際であっても、連絡可能な電話番号を記入してください。  
なお、携帯電話等を所持している場合には、その電話番号を記入してください。
- ◆ 授業科目、教官名及びコードについては、各記入欄の枠内に丁寧にかつ正確に記入してください。集中講義を履修する場合には、集中講義についても併せて記入してください。ただし、前期または後期のクォーター2の『TOEIC指導』については、何も記入しないでください。
- ◆ コードについては、共通教育履修案内の共通教育授業時間割及び各学部の専門科目の授業時間割を確認し、正しく記入してください。コードを誤記入すると、自分の意思に反した授業科目を履修登録することになります。
- ◆ 週2コマ開講される授業科目については、1つのみ記入してください。2コマ記入すると、当該授業科目の履修登録ができません。
- ◆ 『スポーツ運動実習』及び主題系列の授業科目については、種目及びテーマを( )書きにより記入してください。
- ◆ 履修届については、丁寧に取り扱い、折り曲げたり汚したりしないでください。

Q：正しく履修登録できるか、不安ですが？

A：履修登録については、各学部の履修の手引や授業時間割、シラバスを参照にしながら、自分自身に適った履修登録を見つけていかななくてはなりません。  
もしも、どの授業科目を履修すればよいのか、少しでも不安がある場合には、所属する学部の教務担当係に相談してください。みなさんの周りの他の誰よりも、正確かつ適切なアドバイスをしてくれます。次に説明する履修届変更期間を経過すると、授業科目の新規登録や変更ができませんので、早めのアドバイスを受けてください。

#### (5) 履修届の変更

履修届を変更する際には、以下の変更受付期間に、**教務課共通教育係**にて変更してください。ただし、経済学部の学生については、**教務課共通教育係**及び**経済学部学務第一係**のいずれにも、履修届を変更してください。

なお、履修届を変更する際には、変更箇所を消しゴムにより完全に消してから、正しく変更してください。

《受付期間》 前期：平成15年4月25日(金)～平成14年4月28日(月) 17時 (時間厳守)  
後期：平成15年10月14日(火)～平成14年10月15日(水) 17時 (時間厳守)

#### (6) 履修確認票の配付

履修確認票とは、みなさんが提出した履修届を電算処理して、履修しようとするすべての授業科目について、曜日・時限、コード、授業科目、単位、担当教官等を記載した書類です。以下の期間に配付される履修確認票を受領し、その記載内容を慎重に確認し、その記載内容に少しでも誤表示等がある場合には、必ず**教務課共通教育係**に申し出てください。特に、履修確認票のチェック欄にエラー表示がある場合には、その授業科目については、履修登録されていません。

履修確認票に記載されていない授業科目については、履修することができませんし、単位を認定することもできません。また、担当教官及びコード等を誤表示された授業科目については、実際に履修している授業科目の定期試験等を受験したとしても、成績の認定をすることができません。

なお、履修確認票を受領しない学生及び亡失した学生については、その後の履修及び成績の問い合わせには、一切応じかねます。

《配付期間》 前期：平成15年5月6日(火)～平成15年5月7日(水) 17時 (時間厳守)  
後期：平成15年10月21日(火)～平成15年10月22日(水) 17時 (時間厳守)

※ 配付期間変更の場合がありますので、掲示を留意しておいてください。

## (7) 履修確認票の確認事項等

- ◆ この履修案内の履修届(控)に記入した内容が、履修確認票に正確に反映されていますか？
- ◆ 以下のようなエラー表示が、履修確認票のチェック欄に明示されていませんか？
  - A：コードが存在しない場合
  - B：同じコードが複数存在する場合
  - C：外国人留学生用の授業科目を履修登録している場合
  - D：同一学期に同じ授業科目を履修登録している場合
  - E：履修不可の授業科目を履修登録している場合
  - F：同一の曜日・時限に重複して履修登録している場合
  - G：上位学年の授業科目を履修している場合
- ◆ 自分の意思に反した授業科目が、表示されていませんか？
- ◆ 『スポーツ運動実習』や『TOEIC準備』等については、正しい担当教官のクラスに登録されていますか？
- ◆ クラス指定のある授業科目については、正しいクラスに登録されていますか？
- ◆ 専門科目についても、正しく登録されていますか？

## 2. 履修手続に関する注意事項

### (1) クラス指定について

授業科目によっては、学部及び出席番号(学籍番号の7桁から9桁の数)によりクラス指定されているものがあります。クラス指定された授業科目については、原則として、該当する対象学生以外履修することはできません。

### (2) 重複履修の禁止

同一の曜日及び時限において、2つ以上の授業科目を重複履修することはできません。重複履修の場合には、そのすべての単位を無効とします。

### (3) 既修得授業科目の再履修について

積み上げ履修可能な授業科目を除いて、既に単位を修得した授業科目を再び履修し、単位を修得しても、卒業に必要な単位に加算することはできません。

また、既に単位を修得した授業科目の評価については、再び単位を修得したとしても、過去の評価を変更することはできません。つまり、『可』の評価であった授業科目について、再履修により『優』の評価を受けたとしても、『可』の評価に『優』の評価を加えることになり、『可』の評価を抹消することはできません。

## 3. 履修及び授業に関する問い合わせ

### (1) 履修に関する問い合わせ

共通教育科目の履修に関する問い合わせについては、原則として、**所属する学部の教務担当係**に申し出てください。ただし、1年次の医学部及び工学部の学生については、教務課共通教育係に申し出てください。

### (2) 授業に関する質問等

授業に関する質問については、共通教育シラバスに記載されているオフィスアワーを利用して、担当教官にコンタクトをとってください。教官の研究室については、**附表の共通教育担当教官名簿**に記載されています。

また、非常勤講師については、授業の開始前及び終了後等の時間を利用して、質問するのが良いでしょう(非常勤講師室：共通教育本館1階)。教務課共通教育係においては、非常勤講師の連絡先等については、学生に教えることはできません。

### (3) 授業の欠席届

疾病、忌引、教育実習、就職試験等やむを得ない事由により共通教育科目の授業を欠席する場合には、欠席届を提出することができます。欠席届には、所属する学部及び学科・課程、学籍番号、氏名、欠席日時及び欠席事由を記入し、授業担当教官に提出してください。ただし、教務課共通教育係においては、所定の欠席届を作成していませんので、任意の様式により作成してください。

なお、欠席届については、担当教官に欠席を届け出るためのものであり、出席扱いになるものではありません。

## 4. 掲示について

### (1) 掲示板の設置

共通教育科目に関する学生への諸連絡については、共通教育本館1階の情報処理大演習室前の電子掲示板及び共通教育本館－共通教育合併講義棟の渡り廊下の共通教育掲示板において、掲示により指示しますので、1日1回程度、掲示板を忘れずに確認してください。

### (2) 自己責任について

山口大学において、学生のみなさんが学習していく課程にあつて、最も大切なことと言えば、自己責任ということです。社会人としては当然のことなのですが、自分自身の行動については、自分自身が責任を持つという態度が、大学生の最低限のルールです。

掲示の見落としによって、レポートの提出期限に遅れたり、各種のオリエンテーションに欠席したり、休講や教室変更の情報を得られなかったりして、不利益を生じることがあります。これらの不利益とは、本人の不注意によるもの以外の何ものでもないので、自己責任の意識を明確に持ち、行動してください。



## VI. 共通教育の定期試験について

### 1. 定期試験等について

#### (1) 定期試験

共通教育科目の定期試験については、原則として2週間の定期試験期間を設定して、筆記試験により実施します。ただし、担当教官によっては、定期試験をレポート等の提出に替えることがあります。

なお、担当教官によっては、中間試験等を実施することもありますので、各授業内におけるお知らせや掲示に留意しておいてください。

#### (2) 定期試験の時間割発表

共通教育科目の定期試験の時間割の発表については、**定期試験開始日の1週間前**に、掲示により行います。

なお、**専門科目の定期試験の時間割等**については、所属する学部の指示に従ってください。

### 2. 定期試験の受験上の注意

#### (1) 不正行為

定期試験等において、不正行為を行った学生については、その行為が発覚した時点から謹慎処分となり、**その学期における当該学生の履修した授業科目すべての単位が無効**となり、学則により相応の懲戒処分をうけることとなります。

#### (2) 学生証の提示

定期試験を受験する際には、必ず学生証を持参し、机の上に提示してください。学生証を忘れた学生については、定期試験を受験することができません。

なお、教務課共通教育係においては、学生証を亡失した学生が、定期試験の受験当日にその旨を申し出たとしても、いかなる対処もできません。

#### (3) 遅刻者及び退席者の取り扱い

試験開始後**20分**以上遅刻した学生については、受験することができません。また、試験開始後**30分**以上経過するまでは、試験室を途中退席することができません。

#### (4) その他の注意事項

定期試験の答案用紙には、所属学部等、学籍番号及び氏名を明記してください。これらを記入していない答案については、無効となる場合があります。

また、定期試験時間中に、試験監督者の指示及び注意事項を遵守しない学生については、退席を命じられることがあります。

### 3. 追試験について

#### (1) 追試験とは

追試験とは、定期試験を受験できない事由のある学生を対象として、学生本人の申請に基づき、その事由を『真にやむを得ない事由』として認める場合に限り、実施する試験です。

#### (2) 『真にやむを得ない事由』及び申請に必要な証明書類

- ◆ 疾病 ⇒ 医師の診断書
- ◆ 忌引(2親等内の親族に限る。) ⇒ 会葬御礼の書面等
- ◆ 国家(地方)公務員試験の第2次試験の受験 ⇒ 第1次試験の合格通知書
- ◆ 大学教育センター長が、特にやむを得ない事由であると認めた場合

### (3) 追試験の申請手続

原則として、事前に『共通教育科目追試験願』に所定事項を記入及び押印し、受験することができない事由を証明する書類を添付して、教務課共通教育係に提出してください。

また、事前に申請することが時間的に困難な場合には、当該の定期試験開始前までに、教務課共通教育係に連絡し、了解を得てください。この場合の申請書類については、該当する授業科目の定期試験期間終了後1週間以内に、教務課共通教育係に提出しなければなりません。

なお、専門科目については、所属する学部の教務担当係に申請してください。ただし、医学部及び工学部の1年次生については、教務課共通教育係に提出してください。

### (4) 追試験の実施

追試験については、当該の定期試験終了後に、速やかに実施します。

追試験の実施日時等については、教務課共通教育係から本人に連絡があります。

## 4. 再試験について

### (1) 再試験とは

再試験とは、定期試験を受験した学生のうち、成績評価の『不可』の学生を対象として、各担当教官の判断により実施する試験です。つまり、定期試験を受験しなかった学生については、再試験の対象となりません。

### (2) 再試験の実施

再試験については、該当する授業科目の定期試験終了1週間後から5日間の期間に、担当教官が実施します。

なお、再試験の対象学生や実施日時等については、担当教官から通知がありますので、掲示等に留意しておいてください。

### (3) 成績の評価

再試験により合格した学生の成績評価については、すべて『可』となります。

## 5. 成績について

### (1) 成績について

成績については、共通教育シラバスに掲載されている各授業科目における担当教官の成績評価方法(定期試験(中間試験及び期末試験)の成績、小テスト・レポート、課題、授業態度、出席状況等)によって、100点法により算出されます。60点以上を合格とし、100点～80点を優、79点～70点を良、69点～60点を可、59点以下を不可(不合格)と表記します。

### (2) 成績の通知について

成績の通知については、所属する学部において、次学期の開始時の成績通知票の配付のみにより行われますので、配付された成績通知票については、大切に保管しておいてください。成績通知票の配付日時等については、掲示により通知しますので、特に留意しておいてください。

なお、教務課共通教育係においては、成績通知票の配付以前にあつては、いかなる事由によつても、個別に成績の通知を行いません。

### (3) 成績に関する問い合わせ

共通教育科目の成績に関する問い合わせについては、原則として、所属する学部の教務担当係に申し出てください。ただし、1年次の医学部及び工学部の学生については、教務課共通教育係に申し出てください。

なお、成績に関する問い合わせをする際には、配付された履修確認票及び成績通知票を必ず持参してください。

#### (4) 成績の自己管理

卒業するまでの成績については、配付された成績通知票を保管し、自己の責任により自分の成績状況等を正確に把握しておいてください。単位数の修得状況の勘違い等により卒業できない事態を招くことのないように、留意してください。

Q：共通教育科目の修得単位、どうやって管理するの？

A：繰り返しにはなりますが、学生のみなさんが修得した成績及び単位については、自分自身が正確に管理しないといけません。例えば、4年生になって、『共通教育科目の〇〇の単位を修得していないから、今年の前期に単位を修得しないと卒業できません!』という連絡については、所属する教務担当係からは何もありません。

成績及び単位の修得状況については、各期(前期及び後期)ごとに、所属する学部において、今までに単位を修得した共通教育科目及び専門科目の授業科目や単位数等を記載した成績通知票が配付されます。この成績通知票を大切に保管し、『今まで修得している授業科目や単位数』や『卒業までに修得しないといけない授業科目及び単位数』について、常に正確に把握し、次の学期において、どの授業科目を履修しなければならないかについて、自分自身が決定しなくてはなりません。『成績通知票の確認 → 次の学期の履修届提出』にあたっては、学生のみなさん自身が、細心の注意を払う必要がありますので、留意してください。

## VII. その他

### 1. 既修得単位の認定

#### (1) 既修得単位認定制度とは

他大学または短期大学、大学以外の教育施設(放送大学等)において、修得した単位及び資格について、既修得単位認定の希望者からの申請により、本学における審査に基づき、その修得単位のうち60単位を最大として、本学における修得単位として認定する制度です。

#### (2) 既修得単位認定の申請

既修得単位認定の希望者については、既修得単位認定申請書(所定の様式)に成績証明書1部及び講義要項等の写しを添付し、所属する学部の教務担当係に申請してください。

### 2. 放送大学の授業科目の履修について

#### (1) 放送大学との単位互換

山口大学と放送大学との単位互換協定に基づき、放送大学の授業を履修して、単位認定試験により単位を修得すれば、本学における卒業に必要な単位(共通教育科目または専門科目)としてみなすことができます。

なお、履修できる授業科目及び修得できる単位数については、所属する学部により異なりますので、放送大学の授業科目の履修を希望する学生については、事前に所属する学部の教務担当係に問い合わせてください。

#### (2) 放送大学の授業科目の受講について

平成15年度・第2学期(平成15年10月1日(水)～平成16年3月31日(水))における放送大学の授業科目受講に関する概要については、以下のとおりです。

《出願手続》 詳細については、掲示によりお知らせします。

受付期間：平成15年6月15日(日)～平成15年8月15日(金)

《学 費》 授業料：1科目(2単位)あたり、10,000円(入学科については、免除。)

《履修方法》 CSデジタル放送の視聴、カセットテープ・教科書による通信指導

《認定試験》 小野田市の山口学習センターにおいて、以下の期間に実施されますが、授業科目によっては、山口大学の学期末定期試験と日程が重複することがあります。

試験期間：平成16年1月22日(木)～平成16年1月28日(水)

なお、平成16年度・第1学期以降については、掲示を留意してください。

### 3. 山口県立大学の授業科目の履修について

#### (1) 山口県立大学との単位互換

山口大学と山口県立大学との単位互換協定に基づき、山口県立大学の授業を履修して、学期末定期試験により単位を修得すれば、本学における卒業に必要な単位(共通教育科目または専門科目)としてみなすことができます。

なお、履修できる授業科目及び修得できる単位数については、所属する学部により異なりますので、山口県立大学の授業科目の履修を希望する学生については、事前に所属する学部の教務担当係に問い合わせてください。

#### (2) 共通教育科目における山口県立大学との遠隔授業について

平成15年度については、以下のとおり開講予定(定員：125名)となっています。

《前期》 火曜日9・10時限 政治学(国際関係論Ⅰ) 担当：小川 秀樹

金曜日1・2時限 宗教学(アジア文化論Ⅰ) 担当：鈴木 隆泰

## 4. 教育職員免許状について

### (1) 教育職員免許状取得に必要な共通教育科目

教育職員免許状の取得を希望する学生は、所属する学部を問わず、以下の共通教育科目の単位を修得する必要があります。

- ◆ 日本国憲法 … 2単位
- ◆ 運動健康科学 … 2単位
- ◆ スポーツ運動実習 … 1単位
- ◆ 英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕 … 2単位
- ◆ 情報処理演習 … 2単位

Q：教育職員免許状を取得したんだけど？

A：教育職員免許状については、免許状の種類(小学校や中学校等)や教科(数学や英語等)により区分されています。教員免許を取得する学生のみなさんは、所属する学部において開設されている教職科目(教科に関する科目と教職に関する科目とがあります。)について、共通教育科目や専門科目以外に単位を修得しないとけません。そして、3年次または4年次において、『教育実習』を行います。また、小学校または中学校の教育職員免許状の取得を希望する学生のみなさんは、『介護等の体験実習』も必要となります。教育学部及び経済学部商業教員養成課程を除く学部等に所属する学生のみなさんは、教職科目等の単位については、卒業に必要な単位に算入されませんので、1年次からの計画的な履修を心がけるとともに、相当の覚悟と努力が必要となります。

### (2) 教育職員免許状に関する問い合わせ

教育職員免許状については、所属する学部により取得できる免許状の種類や教科が異なりますので、詳細については、所属する学部の教務担当係に問い合わせてください。

## 5. 共通教育本館コインロッカーの使用について

### (1) コインロッカーの設置

スポーツ運動実習等の授業等におけるノートパソコン等の所持品の一時的な保管庫として、コインロッカー(20台 200名分)を共通教育本館2階の踊り場に設置していますので、有効に活用してください。

なお、コインロッカーに保管した物品等が盗難等の被害に遭ったとしても、大学教育センターにおいては、一切責任を負うことはできませんので、あらかじめご了承ください。

### (2) 利用時間等

利用時間については、平日の8時30分～18時00分とします。

(大学休業日(土曜日、日曜日及び祝祭日)については、館内立入禁止となっています。)

また、1日当りの個人の利用時間については、2時間以内とします。長期占有については、厳禁とします。長期占有使用している場合には、使用者に断ることなく、コインロッカーを開錠し、物品等を移動させることがあります。

### (3) 使用方法について

コインロッカーを利用する際には、100円硬貨をコイン投入口に投入してから、施錠してください。投入した100円硬貨については、開錠の際に返戻されます。

### (4) 使用にあたっての留意事項

コインロッカーの破損及び鍵の紛失等の場合には、原状回復のための修理費用等については、当該使用者の自己負担となりますので、留意してください。

## Ⅷ. 山口大学共通教育科目履修規則

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学学則（昭和40年規則第13号。以下「学則」という。）第19条の2第2項の規定に基づき、共通教育科目の履修方法、試験等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(授業科目及び単位数)

第2条 授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

2 各授業科目は、半年学期制により開講するものとする。

3 1授業科目につき修得できる単位数は、原則として4単位、2単位又は1単位とする。

(外国人留学生対象の授業科目)

第3条 前条に定める授業科目のうち、「日本語」及び「日本事情」の分野の授業科目は、外国人留学生対象の授業科目として開設し、修得できる単位数は、各学部が別に定める。

2 前項以外の学生は、各学部の定めるところにより、「日本事情」の分野の授業科目を人文科学系列又は社会科学系列の授業科目に替えることができる。

3 「日本語」の分野の授業科目は、30時間の授業をもって1単位とし、「日本事情」の分野の授業科目は、30時間の授業をもって2単位とする。

(単位の計算)

第4条 各授業科目の単位の計算は、学則第22条第1項第1号及び第2号並びに前条第3項の定めるところによる。

(共通教育科目の年次配当)

第5条 年次における配当は、学部規程の定めるところによる。

(卒業に必要な授業科目及び単位数)

第6条 卒業に必要な共通教育の授業科目及び単位数は、学部規程の定めるところによる。

(履修手続)

第7条 学生は、每学期指定の期日までに、履修しようとする共通教育科目を所属学部長に届け出なければならない。ただし、入学した年度にあっては、山口大学大学教育センター長（以下「センター長」という。）を経て所属学部長へ届け出るものとする。

(履修科目の評価)

第8条 履修科目の評価は、各授業担当の教官が、出席状況及び試験の成績等によって行う。

2 評価は、優、良、可及び不可をもって表し、可以上を合格とする。

3 評価は、センター長から当該学部長へ通知する。

(試験)

第9条 試験は、学期末に行う。ただし、必要がある場合は、学期末以外の時期に行うことがある。

2 前項の規定にかかわらず、平常の成績をもって試験に代えることがある。

3 学生は、第7条の手続を経していない科目については、受験することができない。

(追試験等)

第10条 やむを得ない事情により、所定の試験に欠席した者に対しては、特に審議のうえ、追試験を行うことがある。

2 担当教官の判断により、再試験を行うことができる。

3 追試験及び再試験に関して必要な事項は、別に定める。

(単位の認定)

第11条 単位の認定は、各学部が行う。

(他の大学等及び入学前の修得単位等の認定)

第12条 学則第19条の3、第19条の4及び第19条の5の規定に基づく共通教育の単位の認定は、センターの審査を経て、各学部が行う。

2 前項に関して必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な事項は、大学教育機構運営委員会の議を経てセンター長が定める。

附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行し、平成8年度に入学する者（この規則施行の際現に在学する者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者を除く。）から適用する。

附 則

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 平成10年3月31日以前の入学者の授業科目及び単位数は、改正後の第2条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成12年4月11日から施行し、この規則による改正後の山口大学共通教育科目履修規則の規定は、平成12年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成12年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

2 平成14年3月31日以前の入学者の授業科目及び単位数、外国人留学生対象の授業科目、単位の計算並びに共通教育科目の授業科目及び単位数は、改正後の第2条、第3条及び第4条並びに別表（第2条関係）2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 平成15年3月31日以前の入学者の共通教育科目の授業科目及び単位数は、改正後の別表（第2条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、平成14年度入学者については、従前の共通教育科目の授業科目及び単位数に、応用科学系列の応用科学分野の授業科目に「気象学概論(2単位)」を加えたものを適用する。

## 別表（第2条関係）

## 共通教育科目の授業科目及び単位数

系 列	分 野	授 業 科 目	単 位 数
主 題	思想と文化	思想と文化	2
	芸術と表現	芸術と表現	2
	社会と組織	社会と組織	2
	環境と人間	環境と人間	2
	自然と科学	自然と科学	2
	健康とスポーツ	健康とスポーツ	2
人 文 科 学	哲学	哲学	2
	倫理学	倫理学	2
		生命倫理学	2
	歴史学	日本史	2
		東洋史	2
		西洋史	2
	宗教学	宗教学	2
	心理学	心理学	2
	文学	日本文学	2
		漢文	2
		外国文学	2
	言語学	言語学	2
	芸術	芸術史	2
芸術概論		2	
芸術実践		2	
社 会 科 学	法学	法学	2
		日本国憲法	2
	政治学	政治学	2
	経済学	経済学	2
	社会学	社会学	2
	地理学	地理学	2
	民俗学	民俗学	2
	文化人類学	文化人類学	2
	教育学	教育学	2
	情報学	情報メディア論	2
	産業倫理	産業倫理	2
	ベンチャービジネス論	ベンチャービジネス論	2
社会科学総合	社会科学概論	2	
自然科学入門	自然科学入門	数学入門 1	1
		数学入門 2	1
		物理学入門 1	1
		物理学入門 2	1
		化学入門 1	1
		化学入門 2	1
		生物学入門 1	1
		生物学入門 2	1
	数学	数学 I	2
		数学 II	2



自然科学	物理学	物理学Ⅰ	2
		物理学Ⅱ	2
	化学	化学Ⅰ	2
		化学Ⅱ	2
	生物学	生物学Ⅰ	2
		生物学Ⅱ	2
	地球科学	地球科学Ⅰ	2
		地球科学Ⅱ	2
	自然科学概論	数学概論	2
		現代物理学総説	2
		現代化学総説	2
		現代生物学総説	2
		現代地球科学総説	2
	自然科学の考え方	数学の考え方	1
		物理学の考え方	1
		化学の考え方	1
		生物学の考え方	1
		地球科学の考え方	1
	自然科学実験	自然科学実験	2
		物理学実験A	2
物理学実験B		1	
化学実験A		2	
化学実験B		1	
生物学実験		2	
地球科学実験		2	
応用科学	統計学	社会科学のためのやさしい統計学	2
		理工学のための統計学	2
		医学のための統計学	2
	情報処理概論	情報処理概論	2
	医療福祉	介護論	1
		福祉ボランティア論	2
		社会福祉学	2
		発達心理学	2
		医療心理学	2
	応用科学	科学史	2
		技術概論	2
		技術史	2
		生命科学概論	2
		環境学	2
		人間環境論	2
		気象学概論	2
		社会と医療	2
		デザイン工学入門	2
		スポーツ医学	2
運動健康科学		2	
スポーツ運動実習	1		

初期教育	初期教育	フレッシュマンセミナー(新入生合宿)	0
		基礎セミナー	2
	情報処理	情報処理演習	2
	※日本事情	日本事情中級	2
		日本事情上級	2
外国語教育	英語	TOEIC準備	1
		TOEIC指導	1
		英語基礎〔1〕	1
		英語基礎〔2〕	1
		TOEIC認定400	0
		実践総合英語	2
		Comprehensive English (By Native Speaker[1])	2
		Comprehensive English (By Native Speaker[2])	2
		英語リーディング	2
		英語ライティング	2
		英語特別演習	2
		TOEIC認定500(TOEFL450)	2
		TOEIC認定600(TOEFL500)	2
		経済英語 1	2
		経済英語 2	2
		医学英語 1	4
		医学英語 2	2
		医療英語	医療英語
	基礎医療英会話		2
	医療英会話		2
	初習外国語入門	ドイツ語入門 1	2
		ドイツ語入門 2	2
		フランス語入門 1	2
		フランス語入門 2	2
		中国語入門 1	2
		中国語入門 2	2
		ハングル入門 1	2
		ハングル入門 2	2
	ドイツ語	ドイツ語初級 1	4
		ドイツ語初級 2	4
		ドイツ語会話 1	2
		ドイツ語会話 2	2
		ドイツ語中級 1	2
		ドイツ語中級 2	2
	フランス語	フランス語初級 1	4
		フランス語初級 2	4
		フランス語会話 1	2
		フランス語会話 2	2
		フランス語中級 1	2
		フランス語中級 2	2

	中国語	中国語初級 1 a	2
		中国語初級 1 b	2
		中国語初級 2 a	2
		中国語初級 2 b	2
		中国語初級会話 1	2
		中国語初級会話 2	2
		中国語中級 1	2
		中国語中級 2	2
		中国語中級会話 1	2
		中国語中級会話 2	2
		中国語閲読 1	2
		中国語閲読 2	2
	ハングル	ハングル初級 1	4
		ハングル初級 2	4
		ハングル初級会話 1	2
		ハングル初級会話 2	2
		ハングル中級 1	2
		ハングル中級 2	2
	※日本語	日本語中級Ⅱ	1
		日本語上級	1
専門日本語		1	
一般	一般総合	総合科目	2
		総合科目(医療環境論Ⅰ)	4
		総合科目(医療環境論Ⅱ)	4
		総合科目(知的財産権論)	2

備考 表中の※の「日本事情」及び「日本語」の分野の授業科目は、外国人留学生を対象とした授業である。